DESCENTE

生存のすべてを託す、一球のシュートもある。

スポーツマンたちは激しい練習に耐える。それは満足のいくプレーを行うためである。
自らが描いたイメージを、自らの肉体によって実現することが、
彼らの目標であり、彼らのよろこびでもある。
それが無為な行為だとしたら、ロマンと呼んでいいかも知れない。
それこそが、スポーツマンたちの生活そのものであるから。
「アディダス」ハンドボールウェアは、最新の機能で彼らのロマンに応えます。

第9回日本リーグ前期 女子1部

立石・大崎の2強が全勝でUターン

前年の覇者と全日本総合の勝者好調

第9回日本リーグ前期は、6月9日に開幕、ロス五輪の関係で男子1部なく、女子だけという変則リーグとなったが、6月30日まで戦い、前年の覇者・立石電機と全日本総合、実業団の勝者・大崎電気の両チームが4戦全勝で折り返した。

第1週第1日（6月9日）
〔四日市体育館・三重〕

立石電機21（12―10／9―10）20日本ビクター
（1勝）（1敗）

〔ビ〕	得
GK 渡辺	0
FP 志村	8
中根	1
門脇	0
長田	5
武藤	4
遠藤	0
鈴木	0
下條	2
根本	0
池田	0
計	20
PT	(4)

〔立石〕	得
GK 井村	0
荒木	0
FP 是枝	5
近藤	2
亀園	3
岩村	0
藪田	1
江口	0
山口	0
山内	3
野嶋	7
長谷川	0
計	21
PT	(4)

（審・森、川島）

○…二度の同点チャンスをPTミスで逃し、2点を追うビクターは、後半気力充実、ジリジリと昨年度の女王・立石に肉薄、三度の退場の危機も乗り越え、後半22分、29分とも志村のPTで同点に持ち込んだ。しかし、立石は22分、サイドから是枝が、29分は是枝の誘ったPTを野嶋がいずれも簡単に決めて突き離し、白星で開幕戦を飾った。

ジャスコ33（16―3／17―7）10東京重機
（1勝）（1敗）

〔重機〕	得
GK 深瀬	0
石井	0
FP 山崎	1
市川	6
森田	0
呑村	0
古谷	0
沖山	0
大前	0
渡辺	2
矢田	0
安田	1
計	10
PT	(2)

〔ジャ〕	得
GK 木村	0
山口	0
FP 寺沢	6
石田	4
鷲野	4
伊勢	2
三木	9
宮本	2
十丸	1
野村	1
近藤	4
徳重	0
計	33
PT	(3)

（審・丸谷、奥田）

○…4年ぶり一部リーグに久々登場の重機は、気力一杯でジャスコに挑戦、しかし、なんとしても体力的に差が明らか、ジャスコのスピードとパワーの前に沈黙しワンサイドゲームとなった。とかく非難される上位と下位のワンサイドゲームの典型ではあるが、スコアブックでは表現できない重機のひたむきなプレーに、千二百人の観客は最後まで席を立たなかった。

第1週第2日（6月10日）
〔露橋スポーツセンター・愛知〕

大崎電気25（11―9／14―8）17大和銀行
（1勝）（1敗）

〔大和〕	得
GK 高浜	0
松本	0
FP 秋成	7
高橋	3
川添	0
若水	0
馬渡	5
天谷	2
前田	0
植田	0
上西	0
丸田	0
計	17
PT	(0)

〔大崎〕	得
GK 梅野	0
藤田	0
FP 大日	1
宮嶋	1
石井	6
時實	0
徳渕	4
沖山	1
深沢	0
李相玉	5
李京姫	7
松尾	0
計	25
PT	(3)

（審・細井、岩本）

○…開始20分まで大崎・石井のロングに対し大和も秋成、馬渡の好シュートでゆずらず6―6の互角。その後、大崎は韓国の相玉、京姫コンビのロングが決まり、前

半を2点差で折り返す。後半に入っても大崎は徳渕の速攻などで加点する。一方、大和は韓国コンビをマンツーするも防ぎきれず、後半は一方的になってしまった。

日立栃木20（7－13、13－6）19ブラザー工業
（1勝）　（1敗）

〔ブ工〕		得
GK	大藪	0
	松藤	0
FP	原田	2
	竹内	1
	赤井	2
	中村	4
	増永	6
	太田	4
	久保田	0
	奥山	0
	森山	0
	荒木	0
PT		(0)
		19

（審・前川 秋永）

〔日立〕		得
GK	椿谷	0
	葛生	0
FP	栗原	0
	西山	1
	清水	0
	土屋	0
	手打	4
	前田	2
	吉田	2
	山本	7
	山岸	3
	井沢	1
PT		(3)
		20

〇…開始30秒、ブラザーは太田のミドルで先制。その後も増永のカットイン、ポストプレー、中村のロングシュートで次々と加点する。一方、日立はシュートミスが目立ち、前半は13－7でブラザー6点のリード。後半に入り日立は反撃に転じ、20分には手打のポストでついに同点とする。その後、一進一退のテンポから残り16秒、日立・手打の劇的な勝ち越しシュートでついに終了。

第2週（6月17日）
〔宗像市民体育館・福岡〕

大和銀行21（10－8、11－12）20日立栃木
（1勝1敗）　（1勝1敗）

〔日立〕		得
GK	椿谷	0
	葛生	0
FP	栗原	1
	西山	2
	清水	0
	土屋	0
	手打	0
	前田	2
	吉田	3
	山本	7
	山岸	2
	井沢	3
PT		(3)
		20

（審・森 大宮）

〔大和〕		得
GK	高浜	0
	松本	0
FP	秋成	3
	高橋	3
	川添	2
	若水	4
	馬渡	5
	天谷	1
	前田	0
	西野	0
	植田	0
	上西	3
PT		(3)
		21

〇…前半10分まで日立のシュートミスを拾った大和が若水らの速攻で4－1とリード。中盤、両チームともセット攻撃でパスミス、チャージングが目立ったが、大和が日立のシュートミスをよく速攻に結びつけ、16分7－4と3点差をつけた。ようやく日立も18分過ぎより速攻でのパスがタイミングよくノーマークに展開し始め、21分7－7の同点とするが、大和はPTと速攻で着々と加点し、前半を10－8とリードして折り返した。

後半、両チームとも動きが良くなり、ポスト、サイド、速攻とテンポの速い攻防がくり広げられた。大和は開始早々、キャプテン高橋の退場時に懸命のディフェンスで守り切り、逆に追加点を奪って波に乗り、5分12－9と3点差。このリードがものをいい、中盤は両チーム3点差で一進一退が続いた。日立は残り2分、20－21と1点差にまでつめ寄ったが、大和は良く守ってそのまま逃げ切った。日立は、前半でミドルを10本程度ゴールポストに当て調子に乗れなかった。

立石電機28（15－8、13－7）15東京重機
（2勝）　（2敗）

〔重機〕		得
GK	深瀬	0
	石井	0
FP	山崎	3
	市川	7
	森田	0
	呑村	2
	古谷	0
	沖山	1
	大前	1
	渡辺	1
	矢田	0
	安田	0
PT		(1)
		15

（審・福田 松尾）

〔立石〕		得
GK	井村	0
	荒木	0
FP	是枝	2
	近藤	2
	亀園	3
	岩村	7
	藪田	0
	江口	3
	山口	3
	山内	3
	野嶋	5
	長谷川	0
PT		(1)
		28

〇…前半5分過ぎ、立石は重機のパスミス、シュートミスをワンマン速攻につなぎ、5－1とリード。試合はこのまま15分過ぎ、立石のセット攻撃が単調になったところを重機は速攻で得点し、4－8と反撃に転じた。しかし、中盤立石は岩村のポストや山内のミドルなどで点差を広げ、27分15－8とし前半を終了した。後半、立石は速攻、セット攻撃で重機を上回り、8分19－8と大勢を決めた。重機も中盤以降、速攻、セット攻撃でたびたびノーマークシュートを作るが、立石GK・荒木の好守に阻まれてチャンスを失ない、結局28－15で立石が楽勝した。

第3週第1日（6月23日）
〔大阪中央体育館〕

大崎電気31（17－9、14－15）24日本ビクター
（3勝）　（2敗）

〔日ビ〕		得
GK	渡辺	0
FP	志村	11
	中根	3
	門脇	0
	長田	3
	武藤	5
	遠藤	0
	鈴木	0
	下條	2
	根本	0
	池田	0
PT		(7)
		24

（審・北山 浜野）

〔大崎〕		得
GK	梅野	0
	藤田	0
FP	大日	1
	宮嶋	2
	石井	4
	時實	1
	徳渕	2
	沖山	0
	塩谷	0
	李相玉	6
	李京姫	13
	松尾	2
PT		(4)
		31

〇…立ち上がり大崎・李京姫のロングシュートや李相玉との二人でのコンビネーションプレーで連続5ポイントをあげる。ビクターは下條の1点と志村のPTで合計2点と反撃するも李京姫のロングシュートが冴え、たちまち10－2と大崎リード。その後、一進一退で前半を17－9と大崎リードで終了。

後半、中盤より大崎は李京姫をはじめ主力を交替させたためシュートがはずれ、ビクターの速攻でもしかしたらという場面もあったが、前半の貯金が大きくものをいって大崎の勝ちとなった。両軍合わせて55点（リーグ新）という得点は、ゲームにスピード感があり観客を楽しませた。

ジャスコ20（14－6、6－13）19大和銀行
（2勝）　（1勝2敗）

〇…ジャスコのカットインプレーと大和のロングシュート攻撃の試合であった。前半、大和のロングシュートはジャスコGK木村の

	大和	得		ジャ	得
GK	高浜	0	GK	木村	0
	松本	0		小深山	0
FP	秋成	7	FP	寺沢	6
	高橋	1		石田	1
	川添	0		鷲野	2
	若水	2		伊勢	2
	馬渡	5		三木	2
	天谷	1		宮本	0
	前田	0		十丸	0
	植田	0		野村	0
	上西	3		近藤	7
	丸田	0		高岡	0
PT	(3)	19	PT	(4)	20

（審・丸岡 大原）

好守に合い秋成の1点のみであった。ジャスコはカットインからポストやサイドへと左右へうまくボールを散らせ、好機に寺沢、近藤のシュートが冴えて着々加点、前半を14－6とジャスコ大量リードで終了。後半、大和はジャスコ寺沢をマンツーマン。この作戦でジャスコの攻撃がくずれ出し、大和は馬渡の速攻や秋成の活躍で白熱したゲーム展開となり終盤もう1点と迫るもジャスコは辛うじて逃げ切った。

〔京都府立体育館・京都〕

立石電機23（8－4 / 15－9）13ブラザー工業
（3勝）（2敗）

	ブ工	得		立石	得
GK	大藪	0	GK	井村	0
	松藤	0		荒木	0
FP	原田	0	FP	是枝	5
	竹内	2		近藤	2
	赤井	3		亀園	5
	中村	1		岩村	2
	増永	2		藪田	0
	太田	1		江口	0
	久保田	2		山口	1
	奥山	2		山内	0
	森山	0		野嶋	7
	荒木	0		長谷川	1
PT	(1)	13	PT	(3)	23

（審・島崎 井上）

○…前半20分までは両軍GKの好守によりなかなか得点出来ず、5－2と立石リード、20分過ぎ、立石・野嶋がたて続けにシュートを決め、ブラザーもセット攻撃で反撃するが、8－4と立石リードで前半終了。後半に入ると立石がリズムを出し、ブラザーのミスをついて是枝、亀園らがつぎつぎとシュートを決め、立石が余裕を持ってゲームを進め、結局23－13で立石が楽勝した。

第3週第2日（6月24日）

〔明石市立中央体育館〕

立石電機26（14－10 / 12－12）22大和銀行
（4勝）（1勝3敗）

	大和	得		立石	得
GK	高浜	0	GK	井村	0
	松本	0		荒木	0
FP	秋成	2	FP	是枝	4
	高橋	6		近藤	2
	川添	4		亀園	0
	若水	6		岩村	4
	馬渡	1		藪田	2
	天谷	1		江口	0
	前田	0		山口	0
	植田	0		山内	5
	上西	1		野嶋	5
	丸田	0		長谷川	0
PT	(1)	21	PT	(4)	22

（審・北山 浜野）

○…前半、立ち上がり立石・是枝のサイド、山内、岩村のカットインプレーで3点連取するも、大和は川添のミドルで応酬、一進一退で15分頃、7－7とするが、立石はGK荒木の好守と野嶋のカットインプレーで、前半14－10と立石リードで折り返した。後半に入るや、大和は野嶋にマンツーマンディフェンスをしき立石のリズムを狂わせ、若水、高橋のカットインプレーで着々加点。17分、26分には二度も1点差までつめ寄ったが、チャンスを生かせず追いつくことが出来なかった。

大崎電気34（18－11 / 16－8）19ブラザー工業
（4勝）（3敗）

	ブ工	得		大崎	得
GK	大藪	0	GK	梅野	0
	松藤	0		藤田	0
FP	原田	3	FP	大日	1
	竹内	5		宮嶋	2
	赤井	0		石井	4
	中村	4		時實	1
	増永	2		徳渕	7
	太田	0		沖山	0
	久保田	1		李相玉	10
	奥山	0		李京姫	6
	森山	1		西村	1
	荒木	1		松尾	0
PT	(2)	17	PT	(2)	32

（審・大原 島崎）

○…李相玉、李京姫を中心とした大崎は、攻防ともにブラザーを圧し、GK梅野の好守からの速攻を2人につなぎ、そこからのパスで徳渕、石井らのポスト、サイドの攻撃が生き、ブラザーは竹内、中村らが、カットインやポストプレーで応戦するも18－11と大崎リードで折り返した。

後半に入っても大崎は攻撃の手をゆるめず着々と加点、悠々と逃げ切った。

〔栃木市総合体育館・栃木〕

日立栃木27（13－7 / 14－7）14東京重機
（2勝1敗）（3敗）

	重機	得		日立	得
GK	深瀬	0	GK	椿谷	0
	石井	0		葛生	0
FP	山崎	0	FP	栗原	0
	市川	7		西山	2
	森田	0		清水	0
	呑村	2		土屋	1
	吉谷	0		手打	2
	沖山	1		前田	4
	大前	1		吉田	4
	渡辺	2		山本	7
	矢田	0		山岸	4
	安田	1		井沢	3
PT	(3)	14	PT	(4)	27

（審・横瀬 矢沢）

○…前半立ち上がりから3分過ぎまで両者ともに決定打がなくノーゴール。3分30秒に重機・渡辺の速攻による得点をキッカケに均衡が崩れ、日立も4分、山本がPTを決め1－1の同点。その後、10分過ぎからは重機のミスに乗じ、日立は前田のアシストを中心に吉田、山本、山岸らが速攻、ロングシュートと多彩な攻撃で加点、20分過ぎには12－4と重機を大きく引き離した。重機は新人・市川、山崎のフレッシュなパワーをからめて反撃するが、やはりエース中本を故障欠場で欠いた穴は大きく、コントロール役となるベテラン沖山への負担も増して持ち味とする速攻のコンビネーションにつながり今一歩、前田、山本、山岸らの重量感あふれるシュートで着実に追加点を重ねる日立の前に力負けした。

第4週（6月30日）

〔岩井市民総合体育館・茨城〕

大崎電気29（13－6 / 16－8）14東京重機
（4勝）（4敗）

〔重機〕	得
GK 深瀬	0
GK 石井	0
FP 山崎	2
FP 市川	5
FP 中本	0
FP 森田	0
FP 呑村	1
FP 沖山	1
FP 大前	2
FP 渡辺	0
FP 矢田	3
FP 安田	0
(2)	14

（審・　　）

〔大崎〕	得
GK 梅野	0
GK 藤田	0
FP 大日	0
FP 宮嶋	5
FP 石井	3
FP 時實	5
FP 徳渕	3
FP 沖山	0
FP 深沢	1
FP 李相玉	5
FP 李京姫	7
FP 松尾	0
(2)	29

〇…日本リーグ初タイトル奪取に意欲まんまんの大崎だったが、この日はいつになくミスが多く、得意のコンビネーションプレーが空転して出足は悪かった。これに対し重機は、15分過ぎに安田の2分間退場の間に大崎に2本のPT失敗があるなど、多分に相手の拙攻に助けられていた感はあったが、大前、沖山、そして新人・市川らのハツラツとしたプレーが光って前半20分まで6—7とピッタリと大崎に食いついていた。しかし、このあとがいけない。大崎・李京姫、時實に連続ゴールを許して6—9とされてから、2本PTミスに加えてノーマークシュートを再三バーに当てて得点チャンスを自らフイにしてしまい、15分市川の6点目以降プッツリと得点がとだえたままで完全に沈黙。こうなるとスタートからスローペースだった大崎も、そう"いい顔"ばかりもしてくれず、残り5分の安田の再度の2分退場の場合では、石井、時實にあっさりとゴールを割られ6—11と一気に水があいた。

立ち上がりこそ重機のスピーディなローリングに間を割られていた大崎ディフェンス陣も、GK梅野の再三の好守に助けられるうちにペースを取り戻し、引き気味の堅いディフェンスシフトで重機のカットインを許さなかった。20分7—6からの後半にかけて連続ゴール。このあと重機は矢田のスピードプレー、市川、山崎のロングで終盤は互角の戦いを演じただけに、前半20分から20分余りの沈黙はあまりに痛かった。

日本ビクター 29（11—11, 18—14）25 ジャスコ
（1勝2敗）（2勝1敗）

〔ジャ〕	得
GK 木村	0
GK 羽深	0
FP 寺沢	6
FP 石田	1
FP 鷲野	2
FP 伊勢	1
FP 三木	10
FP 宮本	0
FP 十丸	0
FP 野村	1
FP 近藤	4
FP 服部	0
PT (2)	25

（審・上久保・北井）

〔日ビ〕	得
GK 渡辺	0
FP 志村	11
FP 中根	3
FP 門脇	0
FP 長田	3
FP 武藤	1
FP 遠藤	1
FP 鈴木	0
FP 下條	6
FP 根本	1
FP 池田	3
PT (4)	29

〇…ビクターが37歳のベテラン池田を中心にすさまじい気力を爆発させて地元で初白星、貴重な1勝をものにした。

スタートからジャスコはお家芸の速攻を軸に得意のスピードプレーで確実に点を取っていけば、ビクターもエース志村のロングなどで譲らず、前半を11—11のタイスコアで折り返した。後半に入っても両チームの活発な打ち合いが続き、残り12分20—20と白熱のシーソーゲームが展開されていたが、ここでジャスコ・伊勢が2分間退場いた時に、ビクターベンチはとっておきの秘策、ジャスコ・寺沢へのマンツーマンディフェンスを指示。伊勢が退いていた2分間はジャスコが当たり屋三木の速攻、鷲野のインターセプト速攻を決めて逆に有利に試合を進めていたが、伊勢がコートに戻る寸前、ビクターは池田の気迫のこもったサイドシュート、そして前半からミスが続いて全くのブレーキだった大砲役の武藤がカットインから身体ごとジャスコゴールに飛び込む豪快なシュートで22—22とし、ムードが最高に盛り上がった。

伊勢復帰後もこれでビクターペース。「寺沢からサイドへ振られて失点が重んで苦しかったから」という寺沢マンツーの作戦もズバリと的中した好調だったジャスコの攻撃リズムを完全に狂わせた。20分22—22から4分ほどのこう着状態があったが、ビクターは24分池田がポストから倒れ込んで待望の勝ち越しゴールをきめてがぜん攻勢に転じる。ジャスコが攻めあぐむ間に、ホープ下條のサイド上がりのミドルと速攻で連続ゲット、さらに池田がまたもポストからねじ込んで残り4分26—22。このあと志村のダイナミック速攻と続いて一気に勝負を決めた。ジャスコは焦りの攻撃が目立ち、オーバーステップなどのミスもビクターの猛攻に油を注いだ格好となり、終盤は全く顔色がなかった。

〈2部男子〉

▽6月23日

本田技研熊本 34（17—14, 17—10）24 トヨタ車体
（1勝）（1敗）

大阪イーグルス 35（17—11, 18—14）25 トヨタ自動車
（1勝）（1敗）

中村荷役 27（13—9, 14—8）17 大阪ガス
（1勝）（1敗）

三景 24（15—10, 9—14）24 日鉄建材
（1分）（1分）

▽6月24日

大阪イーグルス 24（14—11, 10—13）24 本田技研熊本
（1勝1分）（1勝1分）

中村荷役 33（15—12, 18—14）26 日鉄建材
（2勝）（1分1敗）

三景 32（16—6, 16—14）20 大阪ガス
（1勝1分）（2敗）

トヨタ車体 24（13—8, 11—12）20 トヨタ自動車
（1勝1敗）（2敗）

〈2部女子〉

▽6月10日

北国銀行 19（9—5, 10—14）19 ムネカタ

イオン・クンスト〈ルーマニア〉のハンドボール

59年2月6日
担当日本女子体育大学　笹倉清則

☆**2月6日　午前の研修内容**

今日は、オフェンスの4…攻撃の型（第3報表1参照）の話をします。

1、ボール回しの基本練習

オフェンスの際に一番大切な動作で、プレーヤーがパスに対し前後に動くということをやります。

〈図1〉

フリースローラインより少し遠くにポジションをとって動きながらパスをする。あまりフリースローラインに近くならないように注意して、約13～14m離れるようにします。

2、ポストシュートの技術

図—2は、ポストの動きを示したものです。△はDefでDFがこの位置であれば、一番簡単です。パスを受けたら少し左足を前に出して体をまわしてシュートします。

〈図2〉

図—3、ポストがその反対のポジションをとるとすれば、DFが自分の左にいるので先程のやり方ではぶつかります。そのため、少し左足を横に出して、DFから少し離れながらシュートします。

〈図3〉

図—4　今度はこのように2人DFが位置していたら、ポストプレーヤーは、ピボットをして右にまわろうとしてもできません。ポストプレーヤーは、足を踏み換えて方向を換えてシュートを狙うことができます。

〈図4〉

図—5、今度は逆です。ポストがボールを受けたら、右足を少し前に出して、体を少しまわして右足でシュートすることができます。

〈図5〉

この様に攻撃の型の中で個人個人の戦術を持っていますが、チームの戦術もあります。

〈図6〉

3、クロスプレー

図—6　一番簡単なクロスの方法です。サイドからパスをもらい、次にセンターがもらってロングシューターをクロスしてロングシュートします。ゲームの中で得点する時一番多く使う方法です。

図—7　ダブルクロスプレー。これは、サイドがパスしてDFの前を走っているセンターに右45度がパスし、次に右45度とクロスしシュートするものです。

この他にも、いろいろな方法があります。

〈図7〉

4、パラパン（壁）プレー

図—8　フリースローの時、3人の選手がDFの前でパラパンをします。もう一つ方法があります。

〈図8〉

図—9　これはパラパンする選手の動きです。このパラパンの時は先程の時よりは攻撃側がはなれています。

※パラパン＝パラパンはDFの前に立ちシュートするプレーヤーを守る。

ブロック＝DFを横からブロックしてシュートする選手の道をひらいてやる。

〈図9〉

5、ブロックプレイ

図—10　この図はブロックの方法です。1人がパスをして左45度の前にDFがいるのでセンターが45度のマークをしているDFを横からブロックして、左45度にポストの上からシュートを打たせます。

〈図10〉

図—11　もう一つのブロックはボールを使わない形で、左サイドが前に出るとDFが左サイドをみるので、その間にセンターが左45度のDFをブロックして、そこに45度が走りこんでシュートします。先程のはブロックする選手がボールを持っていましたが、今のは持っていない方法です。

〈図11〉

図—12　これもブロックする選手がボールを持っていない形です。センターが右45度にパスをしながらDFをブロックして、右45度が走りこんできた左45度にパスを出し、左45度がシュートをします。

〈図12〉

他のブロックの方法を

図—13　この方法は一番効果的な方法です。DFが他のDFに目がいくように、どこからボールがくるのかわからないようにしなければなりません。サイドからボールまわしを始める時、フローターは前に出ながらパスを受けるようにしてDFを引きつけます。このようにして、フローターがボールを受けた時に、ポストがDFをブロックして、フローターがシュートします。

〈図13〉

〈図14〉

〈図15〉

今まで説明したブロックプレイは、ルーマニア人、ユーゴ人ともに、よく使います。次に、2名で行うブロックプレイを説明します。

〈図16〉

〈図17〉

図―14　これは、ボールまわしをしながら、センターとポストがタイミングを合わせて、同時にDFをブロックします。

図―15　私達は、このブロックプレイを試合の時に使い、何度も成功しました。図のようにパスを行い、左サイドが左45度にパスをしながら45度を通って、サイドをブロックします。

図―16　センターがボールを持たないでDFをブロックし、フローターが走りこみながら他の選手からボールを受け、センターがブロックしている位置から、ゴールエリアラインまで下がってシュートします。金曜日、土曜日と日本リーグを観戦しましたが、残念ながら日本の選手は、あまりこの方法を使っていませんでした。

次に、ポストのブロックの方法を説明します。

〈図18〉

図―17　左45度が走りこみ、それに対してDFが前に出た時ポストが、そのDFをブロックし、DFがブロックにかかった瞬間にブロックターンしフローターからパスを受けシュートする。

図―18　もし、左45度がポストにパスが出来ない時、ポストがブロックすることによりDFをずらしてゆき最後にサイドでノーマークをつくりシュートさせる。

〈図19〉

6、パスワークの練習

オフェンスをする時、大切なのは、ボールのまわし方と選手の動きです。

図―19　これは、ボールの動き方です。プレーヤーが全員ポジションにつきます。そして、どのプレーヤーにもパスします。選手たちはこのポジションの位置どりのために動くのと同時に、DFももちろん、オフェンスの前に来て攻撃を阻止しようとします。きのうのサイドの選手はあまり上手ではありませんでした。ボールをもらう時、タイミングが早すぎて、前に出て止まったままボールを受けていました。

〈図20〉

図―20　両サイドに3名ずつ、センターに2名います。左サイドがセンターにパスして、1人サイドからセンターに向って走り、右サイドも走りこんでボールを受け、すぐにセンターにパスをしてという要領で、これを何度も繰り返します。この練習は、技術、戦術、精神的、肉体的向上につながります。

図―21　両サイドに3名ずつ、フリースローラインより少し上の

位置の両45度に二名ずつ選手を置きます。左45度が左サイドからパスを受け右45度にパスをし、右45度は走ってきた左サイドにパスをし、左サイドは右サイドにパスをして、今度は同様に右から展開してというようにして、何度も繰り返します。

〈図21〉

〈図22〉

〈図23〉

〈図24〉

図—22　左サイドから走る時、フリースローライン上を走ります。その際左サイドは長いパスをしなければなりません。左サイドから右45度にパスします。右45度は走りこんできたサイドプレーヤーに、リターンパスします。次に右サイドがまわり込みながらボールを受け、左45度にパスをします。これを何度も繰り返します。

図—23　サイドは、エリアラインを踏まないようにして動き、フローターは、フリースローラインよりも前に出たり、後ろに下がったりというピストン運動をします。左サイドが左45度にパスして、左45度が右45度にパスして、右サイドがボールを受けセンターにパスします。

※この時ルールを守ります。

〈図25〉

図—24　今度は、激しい動き方をします。フリースローライン付近にいる選手は、いつもクロスをする。エリア付近にいる選手はローリングをする。これは、かなりDFを混乱できる動きです。

7、いろいろなオフェンスの方法

図—25　DF6人がエリアライン上に一線に並びます。このDFをする時、選手の身長の高いチームが成功します。例えばソ連、背が高いので手を伸ばすと、なかなかゴールにはいりません。日本人は、背が低いので5＋1か3＋2＋1のDFの方がいいと思います。この図では、オフェンスのポストは2人います。右ポストサイド、45度が三角形になるように位置します。中央のDF2人は、ロングシューターに気をつけなければいけません。

〈図26〉

図—26　DFが5mの間隔をおいて立っている。中央の選手が、3m前に出たら、残りの選手の距離が10mになってしまいます。DFは、前にオフェンスがくると、どうしても前に出なければなりません。その後の分を、2人で守らなければなりません。だから、いろいろな方法を考えなければなりません。そこで、(図—25にもどって) 1人前に出なければなりません。もし前に出なければシュートされます。3番がロングシューターの方に前に出たら、DFがいなくなってしまいます。

図—27　この図は、5＋1のやり方です。DFが1人出ています。センターは、フリースローの

〈図27〉

〈図28〉

前のところを守らなければなりません。そして、もしセンターからゴールに入らなければ成功です。この図では、センターがクロスして右45度にパスをして、トップがセンターについていく。そのトップが右に行った時、右45度が左45度にパスをして、ポストとサイドがいるところで3対2の状態をつくります。そこで、ロングシュートか、ポストでのポストシュートか、サイドシュートという方法があります。

図―28　これは少しむつかしいです。5＋1のやり方です。センターのピポットとポストとクロスします。センターと右45度がクロスして、ポストも走ります。左45度に右45度がパスして左45度はシュートできますが、もう一つの方法は、ポストにパスして、ポストからサイドへパスしてシュートします。

私が今迄説明したことは、ルーマニア人はとても成功している。この様な簡単なやり方でも、バイオリニストの様にはできません。どうしても失敗したりします。

8、トレーニング計画とトレーニング

準備	試合	フリー			
P.Pe	P.C	F	P.Pe	P.C	F
P.Pr+Comp					

ルーマニアでは、普通試合の為の練習をする準備期（PPe）と試合期（PC）といろいろのスポーツをしたり、休養したりするフリーの時期（F）と3つの時期がある。

ナショナルチームは、一年で50〜60試合をしなければなりません。50、60試合をするということは、選手立ちにとって非常に疲れますし、それだけに肉体的に強くなければなりません。そのためには、完全な身体的準備が必要になってきます。身体的な要素は二つに分かれていて全般的なものと、それぞれの特性に応じたものとに分かれています。全般的なものとしては、準備期から始まります。そして、それをもとに一年間やらなければなりません。

R＝持久力＝60分 120分〜150分trainiug
V＝スピード…日本人にはある
F＝force 力 ＜ Gen 全般 ／ Sp 特別 ＜ Ar 投…シュート ／ S 跳…シャンプ

日本人は、ゲーム始め、持久力があるが最後まで続かない。

日本人に一番大切なものは、“R”とAr（投）とS（跳）のトレーニングである。

日本の選手は、全体的には力があるが、特別な力が大切である。

女子の選手についても、足はきれいであるが、ジャンプ力はだめ。小さいからこそ高いジャンプ・力強いシュートが必要になる。

前に言ったルーマニアのスティンガー188cm、グルーソや191cm、モーザ189・5cmで低い。ソ連の平均は205cm、西独のウンダリッヒ201cm、などと比較しても低い。しかし、ゲームでは、3人とも得点している。スティンカーは7試合で65点も決めている。しかし、スペインの試合では5点しか決められなかった。

9、インターバルトレーニング

特別な持久力を身につけるために行います。みなさんも生理学で知っていると思います。心拍数、120回／分〜180回／分の運動が必要です。

昨日、電気刺激の話をしました。電気を加えると筋肉は動き、小さな力では動きません。だから180回／分程度になるトレーニングを加えねばなりません。

トレーニングされた一流選手の寝際の心拍数は56〜60回／分です。私は今、トレーニングしていないので76〜84回／分です。血圧は130／80が良いです。

我々は、毎日調べます。
(1) 立ってどのくらいHR
(2) 屈伸20回でどのくらいを練習前にはかり、どの程度よくなったかを調べます。そしてグラフ用紙に記録する。

我々は、インターバルトレーニングと普通の練習と同じ型でやります。

この様な練習、1分間で160〜180回／分になる。そして休息を45秒〜60秒間とりくり返す。休息中は120回／分まで下がる。1分動き、また休むをくり返す。

2セット
30分
30m＝4″で走る
2分＝P＝休む 歩きながら心呼吸
50m
5分＝P
100m
10分＝P

V＝スピード
＝Rep＝レペティショントレーニング

徐々にスピードを出すトレーニングを行わないと急激なスピードを出すことができない。ハンドボールでは瞬間的なスピードは大変必要である。

これは30秒のきびしいトレーニングをします。

上記のトレーニングを2セット行う。これはもちろん無酸素運動です。長い時間走らねばならない。エネルギーはたくさん使います。この2セットで360m走ります。始めから360mを休みなく走るとスピードトレーニングよりも持久力のトレーニングになる。

スピードトレーニングは我々は、毎週木にこれをやっています。30分間トレーニングし、30分休み、その後ゲームを行います。ゲームは持久力のトレーニングとして行います。

我々は、一年千時間トレーニングしたい。その為には一週間24時間のトレーニングをする。子供達は、一週間で6時間、一年間で360〜400時間トレーニングする。ジュニアでは、一週間10時間、一年で500〜600時間トレーニングします。

1)
3〜6km
600m―ゆっくり
400m―スピード
300m―ゆっくり
400m―スピード

2)
平　登り　下り　平　登り　平
※心肺機能の強さは必要である。

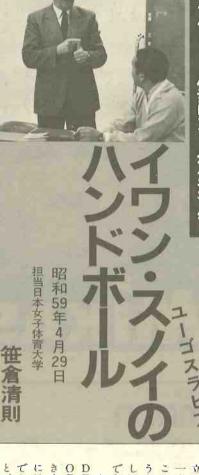
3) アスファルトの道
ゆっくり　速く　ゆっくり　速く

4) 砂浜
400m ランニングぬれているところかたい（簡単）
300m 歩くかわいているところ
600m ランニングぬれているところ
200m 水の中膝より下を走る

ハンドボール講習会報告

イワン・スノイのハンドボール

ユーゴスラビア

昭和59年4月29日
担当日本女子体育大学
笹倉清則

今回の報告は、今年度のジャパンカップ、スポーツフェア〝84〟の為に、日本を訪問したユーゴスラビアチームの監督のイワン・スノイ氏による講習会の報告です。

講習会は、4月29日に行なわれ午前中は、岸記念体育館にて、特に防御中心としての講義、午後は、実際のユーゴチームの練習風景を、東京重機の体育館において見学いたしました。講習会には全日本チームの監督・コーチをはじめ約40名の参加者が、熱心に講習を受けておられました。

今回の報告は、午前中の理論の講義内容を、できるだけ内容に基づき忠実に報告することに勉めましたが、聞きとりにくい点などあり、若干、言葉を変えたり、省略したことを御了承下さい。

最初に日本ハンドボール協会の方にこういう機会を与えてくれたことに感謝をしています。

私がユーゴスラビアから来たのはハンドボールをいっしょに学ぶためです。私達ユーゴ人は日本のハンドボール協会に心から感謝しています。というのは、私達は日本に来て一週間になるわけですが、非常にいろんなことが勉強できました。我々はオリンピックまでに必要ないろいろな準備ができました。

我々は、東京とロサンゼルスを同じような考えをもって対処しています。我々が日本に来て有効だったということは、時差や気温の差があったり、あるいは非常に大きな都会で試合ができるということと、都会で生活できるということが、大変良い経験になったんではないかと思います。そういう意味で、東京で生活できたことは、とても有意義だったと思います。

講習内容

DFについてやりたいと思います。それは新しいDFのシステムを考えたということです。新しいシステムとは、1・2・3のDFのシステムのことです。

三人がゴールエリアのところに立っていて二人は8mの位置で、一人は9mのところにいる。なぜこのDFが有名になったのかというと、ボールをもった攻撃者に対して、必ずDFが二人つくことができるということです。

もしボールが図の45度にきたらDFはこのように動きます。どのOFに対しても常にこのように動きます。しかしこのように動くのには、DFがいいコンディションでなければいけないということと、60分間速く動けなくてはいけないということです。

5・1のDFです。5・1のDFは3・2・1のDFと似てると思います。5・1のDFは似ているけれど、大きな違いは45度のDFの動きにあります。OFが左右の45度にパスをする時、5・1のDFだと45度のDFは3m前後に動かなければいけないが、3・2・1のDFの時はその動きは半分ですんでいる。例えば、日本とユーゴでは5・1では守ることができない。というのは、ガモウができた場合にDFは一人なのでシュートをうたれる。3・2・1のDFもひけばガモウがきても二人で

DFをするので、シュートをうたれない。

次に3・3のDFです。このDFというのは、前に三人いて後に三人いるので3・3のDFという。この3・3のDF、3・2・1のDF、5・1のDFというのは、位置どりに関して非常に似たところがある。この3・3のDFは非常に危険性を伴なう。ポストプレーヤーがいる時、非常に空間が大きいので危険である。ヨーロッパのチームでスウェーデンのチームがこのDFを使っている。この3・2・1、5・1、3・3のDFは深いDFをしいている。

次は4・2のDFです。これらのDFには、いろいろな注意があります。この6・0のDFは、非常に受け身のDFに近い。世界では、ほとんど6・0のDFをしている。なぜこのDFが非常に用いられているかというと、非常に簡単だからです。動きは単純であるがとてもすぐれたロングシューターをもつチームに対しては危険です。この6・0にもいろいろあるがブロック型のDFだとする。新しい6・0の動きとしては、ボールをもった選手にはやくつめるということです。今、ソ連で6・0のDFをしているが新しいシステムでやっている。それは攻撃は常に両サイドから始まる。それに対して、ソ連のDFは両サイドをマンツーマンにして、ボールがサイドにまわるのを防いでサイドからパスをかえすことを阻止する。いろんなやり方があるが、プレーヤーはいろんな形のDFを知るということは、プレーを進行していく上でいろんな要素があると思う。DFのコンビネーションプレーは、良いことであって、常にやらなければならない。

今言ったのとは別に、今度は5+1でのやり方ですが、一人のDFがマンツーマンになって、一人のOFにボールを渡さないやり方で、原則は1・5のDFです。これによって攻撃のリズムをくずす。

これは試合の始めからやるのではなくて急にやって相手に驚きを与える為に試合の途中にこのような形をつくる。

次は、4+2のDFです。四人はゴールエリアのところで守り、二人はマンツーマンをする。3+3のDFは、ほとんどマンツーマンに近い。

日本のDFが攻撃的なDFをやったことは、非常に素晴らしかった。これは日本に対して考えたDFで、インディアンDFという。日本のプレーは、スピードがあるので、それに対して45度とセンターの間に一人入るということで、攻撃のスピードを殺す。それによって攻撃の範囲をコートの半分にする。

これはGKがプレーに参加した場合のことで、GKがOFに参加したらセンターDFが常にGKを見ておいて、もしGKが中に入ってきた場合にはすぐに、サイドDFに指示を与えてDFさせる。ヨーロッパでこういう動きがあるのだと思います。この時重要なことは、センターのDFは頭が良くなくてはいけない。指示を出すことができる人だということが、チームにとって大切なことです。センターDFは、目立たないものだが、重要な存在であるということを知らなくてはいけない。攻撃の最初というのは、ボールを自分達のものにしなければいけないのだからとても重要である。攻撃のスペシャリストであるということより、DFでのスペシャリストであるということを大切にします。我々がチームをつくる時に目指すのは、まずセンタープレーヤーでセンターのDFができる者が必要です。次は45度のDFができる者、次にトップ、そして最後にサイドその中で特に45度とサイドで、左利きのプレーヤーが必要な場合は、左利きを使う。なぜなら、攻撃の時に、左利きを使うと有利だからです。センターDFは、攻撃の時は、センターかポストに行かなければいけない。45度DFのプレーヤーも45度OFのプレーヤーにならなければいけない。両サイドのプレーヤーはもちろん、スピードのあるプレーヤーでなければいけない。今から話すことは、DFの話とは違ったことです。

ソ連には、2m以上ある選手がいますが、あまり頭は良くない。が、シュートを打つ力は非常にある。サイドをやる選手は、171cm～172cmあれば良い。ユーゴでも173cmです。

ソ連のGKは、シュートをキャッチしてしまうので、すぐ速攻につなぐことができる。その為、出足の良いサイドプレーヤーが必要です。両サイドのプレーヤーの平均身長は1m85で、今やっている中では1m97が一番大きい。一人だけ2m以上の人がいるが、どうも調子は良くない。

ハンドボールをやる際、有利なことは、親指と小指との幅が広いことです。一番大きな手の人で間隔が32cmの人がいるが、シュートを20本打っても、入るのは5本ぐらいです。手が大きいとか小さいとかはかかわりなく、シュートというものはどういうねらいをするかということが、一番重要なことです。私の考えとして、ハンドボールはどうやったらいいかを話します。もし質問があるなら考えておいて下さい。ヨーロッパのハンドボールチームは、日本のチームからいろんな考えを取り入れていこうと思います。日本人とはすでに2回戦っています。どうしてハンドボールをやるのかを考えるのは、とても有効なことだと思う。我々にとってとてもスピードのあるプレーヤーは、日本のチームにみられます。そういうふうに考えると、日本は速いプレーをすると思います。ただ私の考えでは、その中でボールを失ってしまう、いわゆるパスミス、キャッチミスが多いと思います。速いスピードの中で、ボールを失うということが多い。それともう一つは、シュートは常に、速く打つということが大切です。

ユーゴスラビアのチーム

一試合で60回攻撃の回数だとす

ると、一分間に一回の割合で、49%~51%以上の成功率があると、得点は25点になる。今の話しで、50%というのは、二回に一回の割合で、一人が、シュートにいっている。それを日本の場合、18%~22%だと、四回に一回の割合になる。今までやってきた中で、一番攻撃の成功率が高かったのは、一九七二年のミュンヘンオリンピックの時で、53%であった。日本の場合、素晴らしいスピードの中にいわゆるテクニックを加えて成功率をあげていけば、世界のトップレベルに追い着くと思います。今まで五回、日本のチームと対戦し、一九六九年ユーゴスラビアで、日本の国と対戦した。前半は 13対8 で日本が勝っていた。この時、観客が六千人ぐらいで、命を賭けているのだというくらい一生懸命やっていたが、最終的には、 18対19 で負けてしまった。その素晴らしい試合をしたことが、一つの例としてあげることができる。世界選手権でまた日本と対戦した。その時私は、心臓がしめ付けられるような試合だった。残り三分三十秒まで、17対17で同点だった。この時はまだ、ストーリングという反則はとられていなかったので、例え、明日の朝までパスを回していても、良かった。そこで私は、残りの三分三十秒、自分達のチームでボールをもってプレーをしろと言った。そして、もしこの試合で一点でも負けていたら、我々は世界選手権で、ミュンヘンオリンピックでもああいう結果はでなかったと思う。これが日本と最初に対戦した、二試合の記憶です。

日本のハンドボールのレベルをあげる為には、色々な地域でも指導しているだろうけど、一番大切なことは、日本の国が常にゲームを消化してやらなければいけないと思う。私の考えでは日本は、世界で十位以内にはいれる力を持っている。

これは自分達の努力にみられる。日本はヨーロッパのチームに対して毎進して対戦してくるのではないか。ロサンゼルスオリンピックする。ユーゴは、日本に期待している。日本はデンマークに楽に勝てるのではないかと思います。デンマークは、日本とノルウェーの試合を見て、「たいしたことはない。」と言っている。そこが日本にとって有利である。

もし日本が一つ、ヨーロッパのチームに勝てば六位に入ることができます。もし六位に入れば、世界選手権の時、自動的に出場することができる。

もし日本が六位に入れば、アジアから今度の世界選手権に2チームでることができる。これはたいしたことである。

〈質疑応答〉

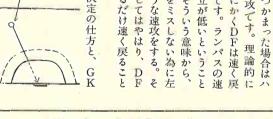
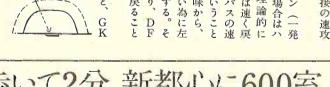
質問:今セットOFについてのお話しを聞いたのですが、速攻のもどりのDFのシステムについて教えて下さい。

答え:もどりに対して一番重要なことは、どこにボールがあるかということです。だからシステムはありません。とにかく、ボールに対して前につめるということです。一秒か二秒のことだから、システムは決められない。非常にいい質問です。やはり、DFには100%の力をいれることが必要です。OFに100%の力をいれることとは無理です。

質問:GKから一人目のOFにボールがいった場合、DFは速くつぶせば良い。今ヨーロッパの速攻は、単発速攻が多いのだが、対角に対してのつぶしをしなければヨーロッパのチームに対応することはできないと思いますがいかがですか。

答え:1⇓GKからの直接の速攻です。½⇓もしリードマン(一発目)がつかまった場合はハーフ速攻です。理論的には、とにかくDFは速く戻ることです。ランパスの速攻は確立が低いということです。そういう意味から、ボールをミスしない為に左記のような速攻をする。それに対してはやはり、DFはできるだけ速く戻ることです。

質問:GKの決定の仕方と、GKについての考え方。

答え:GKというのはチームの勝負の50%を持っている。私達のチームにとって非常に幸運だったということは、今背番号12番をつけている人がでてきたことです。ジュニアの選手権で優勝した時のGK、彼は世界選手権。彼が所属しているクラブチームはワンマンチームだった。これはGKの力が50%以上を占めていること

をあらわしている。GKについては、背が高いとか低いとか、太っているとかは、あまり関係ない。例えば、西ドイツの選手は、2m15あるしハンガリーのGKは、中学時代からやっていますが、1m79しかない。これは極端な例です。今来ているユーゴのコーチもGKです。彼も私達と同じくらいなので、大きい、小さいということは、関係ない。GKにまず必要なことは、ボールに対して飛ぶことです。あといかに速く動くかという、この二つがGKにとって必要な要素である。攻撃ということに関しては、GKはシュートすることができない。GKは手足を動かせば、GKの顔、体の周りは入らないということが言えるのではないか。今言ったように、強いボールに対しては、GKは手を下から上にもっていくと、ボールは全て、コートの外に出てしまう。GKは、ボールをキャッチしようとする。なぜならボールをキャッチすれば、速攻でボールを出すことができる。これは非常に有効なことです。だからシュートは、キャッチするようなキーピングをした方が良い。東京体育館の様な試合場では速攻が有効になる。というのは、ゴールの裏にネットがあると速攻がすぐ出せる状態であるので、キーパーは常にそれを考えておかなければいけない。そう意味では、GKはキャプテンである。今キャプテンにしている彼は、とても若いのだが、試合経験が豊富であるのでキャプテンにしてある。本来ならGKであってキャプテンでなければいけない。

質問：技術的なことも、大切ですけれども、我々はやっぱり、技術を学ぶ前に体力をつけることが大切です。ユーゴの選手を見ていますと、腕力とか握力など大きな差のようなものを感じる。ナショナルチームでトレーニングをすると思うのですが、そういうウエイトトレーニング等は、まとまってやるのか、それとも自分のチームに帰って個人的にやるのか、またどういうトレーニングをするのか、トレーニングの仕方などを紹介して下さい。

答え：ナショナルチームとして一緒にやっても、個人でやっても同じである。我々は科学的にも進んでいるし、規則正しい計画をつくらなければいけない。もちろん一人ではやらない。常にトレーナーかコーチがついてやる。ナショナルチームは、十日間ウエイトトレーニングをやって、全身のウエイトトレーニングを20種類をやった。午前、午後90分のトレーニングをし、最終的には250kgのバーベルをもってスクワットができる位までの筋力をつけた。各チームに対してのトレーニングは、みんなも知ってる通りに、体育館に器具がないから、全身のトレーニングをするのは無理です。それをするのはナショナルチームでする。

質問：ユーゴの1・2・3DF、3・2・1DFはとても素晴らしいのですが、その基本になる指導法はかなり大変だと思うのですが、そういうトレーニング方法について教えて下さい。

答え：もし良かったら、今日の実技の時に時間をかけてやります。ユーゴスラビアでは20m位の幅を6人で守る練習をします。だいたいこの中のDFは、左右に3.5mずつ動かなければいけない。もし一回の攻撃で十回のボールの往復があったら、70mフットワークしなければいけない。だから、それだけの持久力が必要である。この3・2・1DFは、とても重要な時だけしか動かないのであまり疲れない。他のDFが通用しなくなったら、これを使う。もちろんこの⊗プレーヤーはポストをみなければいけないし、ボールも頭に入れておかなければいけない。そういう意味で、1・2・3DFは、二人のDFでみるようになる。

質問：具体的なアドバイスを教えて頂けますか。

答え：明日質問して頂けたらお答えします。日本と感覚が違うのではっきりしたことは言えないのですが、勝った時はあまり何も試合に関して言わない。個人的にはあまり言わないが、今日の試合はこうだったという話しはする。細かいところに関しては、言う時もある。

ＩＨＦシンポジウム報告

『相手に対する動作』(2)

ヴェルナー・フィック　・　光島磯雄

パスのあとのジャンプ動作で、また走る動作でつきあたることは防御プレイヤーに対して負傷→退場を余儀なくさせる可能性をはらむものである。それゆえ、なおざりにされた罰則適用は、防プレーを一層無気力鈍化もしくは粗暴化せしめることになる。

激化する攻撃様相や報復を目的とした反則の反復は堂々めぐりとなり、とどまるところを知らぬ状況となるのは明らかである。

もしレフェリーが歩数の規則によるオーバーステップをうまく吹かなかったとしたら、これはルールに従ってプレーしょうと考える防プレーヤーに対してまぎれもなく大きな不利益をもたらすものである。

賢明な防プレーヤーというものは全体の動き、流れを把握し、そして秒時のうちに決定的な防プレーをおこすためにドリブルやカットプレーのタイミングを阻うものである。余計なステップをする攻プレーヤーは、賢明なゲーム進行を示す防プレーヤーにとっては劣悪なものと考えられる。それは攻チームにとって、それ以上、攻撃可能性も存在しないことになるからである。十分に周囲の状況を顧慮することなく、アンフェアなプレーをする防プレーヤーは、常にこの競技の良さを失わせる。それゆえ、フェアプレーをするチームには当然すぎるほどの不利益を与えるべきではない。フェアープレーをするチームの持つスポーツにふさわしい特性はもちろん、すべての歓迎するところであり、現実にこのようなチームがあれば、レフェリーは必ずそれを認めるべきである。この点からも、攻プレーヤーのステップや他の些細な反則もみのがすことがあってはならないのである。そして場合によっては、これらのことは防チームの反則が先行しているときはアドバンテージを認めることの根拠となる。

次のような防御形態の場合は前記の事柄は準用すべきでない。

ａフェアーで先々までみとおしているか。

ｂアンフェアーですぐに反則行動に出てしまう。

この２つは根本的に区別されるべきものである。

ここで例をあげてみる。

攻撃側が一歩余計に動いた。

●タイプａの場合でのあやまった取扱いとしては

得点チャンスをともなう突破進入でノーマークコースが出来るか、または場合によってはアドバンテージの解釈による同様の場合がおこるか、またはタイミングのはずれたディフェンスによる反則があった後、明らかな得点チャンスを無にしたとして７ｍスローを宣告することになるのか？

●タイプｂの場合

直後にカットインチャンスの展開に進行しようとしているときにフリースローを宣告するか、または場合によっては、それが段階的加重的適用の範囲であるのに警告だけにとどめておくなど。

新知識紹介

終りにもう一つ西ドイツスポーツ研究誌Lehre and Praxis Nr. 5／6'82からの引用した知識を紹介する。

新ルール施行により反則が減少（世界のトップクラスで）したことについては、すでに紹介したとおりであるが、これはトレーナーやプレーヤーが長期にわたって反則を容認し、ときには暴力的な防プレーもひきおこされていたものが、今やディフェンスプレーの創造性と戦術的臨機応変性は魅力あるものになってきた。試合運行に関係するトレーナー・プレーヤー・レフェリーはこの傾向を素直に受け止めるとともに、ハンドボール競技が将来、身体的な力量ではなく、戦術的に技術的に戦略的に頭を使うチームが勝利をを収めるようになることを期待するものである。

私の講演内容の大部分は各国の審判部長あて発送されている。これによって、トレーナーがレフェリーの判定を理解するための討論の刺激となることをのぞむものである。我々がレフェリーにどのようなことを期待し求めているか、そしてこのシンポジウムで難解点にどのような回答がよせられるか、そして世界選手権大会へのレフェリー部門の準備をどうすればよいか、ということに有用となるであろう。

二年前オーストリア・リンダブルンで、そしてその一週間後スイス・マクリンゲンでのシンポジウ

ムでは、IHFはルール改正作業についてのIHF技術委員会の見解を表明した。

主題とするところは、その中に包含されており、今日までその有効性は失われていない。それは我々のハンドボールが健全さを促進する上で、第一級の順応性を持つとともに危険性を除き、観衆に魅力的なものとして受入れられるようにすることである。

この10年来みられつづけてきて、経験的に研究されてきたハンドボールの発展が依然として乱暴なものであったのが、今や、その抑制が焦眉の急事として要求されることとなったのである。

トレーナーやプレーヤーがいかなる状況下にあっても、常に変らぬ勝利へのあくことのない欲望に燃えているという事実を思えば、他にいかなる理由、事情があろうともフェアープレーに徹するという判断に立てなかったのが実情である。

それゆえ、より一層明白な行動見本と罰則の厳格化により、本来のハンドボール理念確立のため新しい意識感覚によりルールの再編成で新秩序が創造されなければならない。

今まで使われてきたルールにおいても、旧17－13をみてもわかるように、適正に妥当に罰則適用ができるものと思われていたことはすでに述べたとおりである。

しかしながら、多年にわたるすべての解説や講習活動は何らかの収穫ももたらさなかった。そこにはアンフェアプレーだけが残っていたのである。多くの現役プレーヤー、競技役員、観衆そしてレフェリーまでも常にエスカレートしつづける試合に馴れ染ってしまっているのである。

新ルール1年半

このシンポジウムの開会にあたり、新ルールが効力を生じてから1年半の間に、我々が見聞し経験したことの報告を今から述べることとする。

新ルールによって行われた多くの国内的、国際的試合について、我々は見方を変えて認識と評価をくだしてみたいと思う。それでも皆さんの中から、特に審判部長やトレーナー側から論議の種は続出することであろう。我々はこのことを待ちのぞんでいるのであり、これらの収集された有益な体験を、今後の向上改善に役立てることができるようにしたいと念願している。このことはトレーナー、プレーヤーそしてレフェリー部門に対してあてはまる重要不可欠のことである。

新ルールの核心となる部分を積極的に前面に出すことにするが、すでに引用言及されたことであるにしても、正直言って、現在、我々がもっとも忙しい思いをしていることでもある。これらはルール第8条(相手に対する動作)とルール第17条(罰則)の関連である。試合を再びフェアーなものに戻し、そしてどんな機会に際しても宣伝効果を高めることを念頭にした目標に到達するには、単なるイエス・ノーの言葉だけでは責任をとることは不可能である。これには、アンフェアーゲームを克服することについて楽観的結果が予想されがちであるが、そこにはまだまだ観察に多くの不足点が存在する。

トレーナー側の見方に話の角度を換えてみても、私が前もって考えたところでは、トレーナーやプレーヤーはレフェリーよりも、はやく新ルールに適応したものとみられる。競技関係役員、チーム役員ともにルールをよく守るようになり、スポーツ精神の高揚に力を尽すことの準備を示している。この習熟の過程は全面的に予想より早期に実現されたとみる。

一方レフェリーについては、一面ではゆるやかながら正しい感触に近づきつつある反面、ルールの解釈については正しくない過剰反応を示していると識者はみている。このような極端な状態での解釈の差異は、新ルールの導入にもかかわらず、依然として大きなマイナス部分としてあらわれている。この前後関係で、レフェリーにのみ責任を追求することは妥当とは言えない。

これは明らかにレフェリー部門全体の教養と研修体系が不十分、不完全であることに由来するものである。

プレーヤーサイドでは、週3～4回の練習のうち最低3回は理論的問題を研究することになっている。

これに反し、レフェリーサイドでは年に平均して1～2回補習教育として会合するのが慣例となっている。このことについて、私は強調したい。かような状態では、新ルールの施行後のレフェリーの統一性ある任務の遂行について語ることは、はなはだ困難となるであろうと!!

我々は、特に重要な多項目にわたる変更を完成させるには、ルール改正作業開始時と、81～82年のシーズン幕開けの間の3～4ヶ月間というものが、短かすぎたと思っていることを正直に申しあげる。この切りつめられた時間帯の中で、各国の言葉に翻訳し、レフェリーに伝達しなければならなかったのである。コート上に集まった25～26人のレフェリー受講者に対して使用すべき研修資料も十分でなかったし、経費計算がうまく行かなかったことも原因の一つである。総括的に向上をはかるためには、不十分といえる研修計画は逆にレフェリーの任務執行の上で不安定、不統一の原因となるのに十分であった。

国際審判員研修会報告

期日　昭和59年3月25日〜26日
会場　愛知県体育館
出席者　岡前・狩野・佐分・斉藤
千野・大塚・島崎・福田・
島田・後藤・岡本・清水・
森・川島・中本・東・竹村

研修内容
25日　実技研修
モデルレフェリーとして3ペア
ゲーム観察の結果

ゲーム		ルールの適応の仕方	身体接触のプレー	ペナルティースロー	失格
1	前	＋2　－2	＋5　－3	＋2　－1	
	後	＋4	＋4　－12		
2	前	＋7　－1	＋5　－7	＋2	
	後	＋2　－1	＋2　－2		
3	前	＋15　－3	＋12　－15	＋5　－5	
	後	＋10　－2	＋6　－12	＋5　－1	

のレフェリングを全員で観察を行った。
※私なら今のケースは吹く。もっと反則を適用する……＋
私なら今のケースは吹かない。きびしすぎる……ー

この表にあらわれた数字は、0に近ければ、それだけ判定の基準が統一されていることになるのであるが、残念ながら、国際審判員クラスでも、このばらつきである。判定の基準を統一することが急務である。また、ゲームの反省として、ラフプレーを処理するのは当然のことながら、良いプレーをどう生かすかが課題である。またゲームの管理も、ゲームの進行と終了までの役割をペアーで話し合うこと。またオフィシャルの指導も忘れない様に、この様な高度な話し合いの雰囲気を大切に続けたい。

26日　研修会

1、IHFトップレフェリー講習会参加報告。

斉藤　実、千野恒夫

A　この会の主旨について
ルールは世界に1つである。クリーンハンドボールを目指す、特にエリア付近の攻防をしっかり判定する。反則の多いチームが勝つことに問題がある。
また、レフェリーの裏をかくプレー、赤カードの使い方などを研究する。

B　レフェリーミーティングについて
大会等のレフェリーミーティングは、技術サイドとレフェリーが話し合を持ち、反則が発展しないためのレフェリーテクニックの研究をする。

C　ルールの適用について
事例をあげ、いろいろなケースについての指導を受けた。
いきなり黄カードは選手を萎縮させてしまう。この辺のテクニックと5分間のあいだに選手に対して基準を知らせることが、大切である。
特に注意すべき事項
(1)　レフェリーがプレーヤーにふれること。
(2)　レフェリーがボールにタッチすること。
(3)　レフェリースローの仕方
(4)　ポストプレーヤーの守り方の観察。
(5)　ルール8の腕の使い方。
(6)　赤カードの使い方
(7)　レフェリー観察の実行。

2、ルール8条について

○段階的適用について

清水　宣雄

日本ハンドボール協会の見解として「スポーツイベント」に発表済みである。
防御者がボールを得る手段として考えられるものは、
(1) チャージング
(2) オーバーステップ
(3) ストーリング
(4) その他

○Werner Vickによる8条の解説について

大塚　文雄

(1)　腕、広げた腕、手の基準
8－1はそのまま理解して良。8－3広げた手、腕は身体には含めない。したがって、手や腕で相手を妨害したり、視野をさえぎる行為をしたときには反則である。
(2)　繰り返しの反則について
段階的に適用していく。注意を重ねる――警告を与える。
――退場。
(3)　教育的配慮の考え方。
やってはいけない事を、トレーナーと共になってやらせない指導が大切である。目標は、そのような行為が起きないようにゲームを管理、運営しなければならない。また全てに教育的配慮をすることとルールの適用は別でなければならない。
(4)　ボールを取ろうとする動作での身体接触には段階的適用はない。
(5)　相手に対する動作で身体接触を繰り返し行うものの段階的適用は……。
○繰り返される反則→警告
○小さい反則→フリースローで良いのか？
注意を繰り返し聞かない場合には警告。こまめに言葉や動作で注意をうながす。

次回　第3回国際審判員研修会は12月19日〜23日、全日本総合選手権大会のときに開催する。
テーマ
1　身体接触の程度と基準
2　段階的適用のしかた。

以上

高校地区大会、各地で熱戦を展開……
栄冠目ざし、北から南から

北海道高校

（6月21、22日・室蘭市立体育館）

〈男子〉

▽1回戦

室蘭東 21（11―6、10―9）15 紋別北
函館東 24（15―6、9―14）20 帯広三条
札幌琴似工 21（10―6、11―9）15 室蘭栄
釧路商 51（20―6、31―12）18 名寄工
札幌丘珠 30（15―6、15―9）15 留萌

▽2回戦

釧路湖陵 33（16―6、17―7）13 室蘭東
札幌琴似工 27（12―5、15―10）15 函館東
釧路商 24（10―9、14―11）20 室蘭工
函館有斗 27（13―14、9―8、3―1、2―3）26 札幌丘珠

▽準決勝

釧路湖陵 18（3―5、8―6、2―0、5―1）12 札幌琴似工
函館有斗 21（18―4、3―12）16 釧路商

▽決勝

函館有斗 18（7―8、11―7）15 釧路湖陵

〈女子〉

▽1回戦

函館女商 27（12―0、15―5）5 紋別北

▽2回戦

室蘭東 24（12―3、12―5）8 札幌丘珠
釧路商 18（7―11、11―5）16 恵庭南
上磯 22（12―1、10―4）5 登別
函館女商 18（9―3、9―3）6 室蘭東
上磯 31（20―0、11―5）5 釧路商

▽決勝

上磯 22（6―9、16―3）12 函館女商

東北高校

（6月30日～7月2日・岩手県花巻市民体育館他）

〈男子〉

▽1回戦

湯沢（秋田）28（10―13、18―7）20 学法石川（福島）
花巻北（岩手）24（8―8、16―11）19 真室川（山形）
古川工（宮城）28（14―11、14―12）23 青森商（青森）
福島北（福島）35（15―7、20―9）16 山形工（山形）

▽2回戦

湯沢 25（11―10、14―11）21 野辺地（青森）
花巻北 23（9―7、14―8）15 仙台一（宮城）
盛岡一（岩手）24（6―7、11―10、3―1、4―4）22 福島北
羽後（秋田）28（13―14、15―10）24 古川工

▽準決勝

花巻北 19（9―10、10―8）18 湯沢
羽後 30（9―11、14―12、4―2、3―2）27 盛岡一

▽決勝

羽後 28（13―6、15―11）17 花巻北

〈女子〉

▽1回戦

聖和学園（宮城）16（5―3、11―4）7 竹田女（山形）
野辺地（青森）16（9―6、7―6）12 花巻北（岩手）
青森西（青森）21（9―5、12―7）12 古川商（宮城）
大曲農（秋田）12（4―6、8―3）9 日大山形（山形）

▽2回戦

郡山女（福島）16（6―5、10―4）9 聖和学園
野辺地 19（7―7、8―8、3―2、1―1）18 秋田和洋女（秋田）
青森西 18（7―6、11―4）10 盛岡三（岩手）
緑が丘（福島）12（8―5、4―6）11 大曲農

▽準決勝

郡山女 13（4―6、9―5）11 野辺地
青森西 17（8―10、9―5）15 緑が丘

▽決勝

郡山女 14（4―9、10―4）13 青森西

北信越高校

（6月22～24日）

〈男子〉

▽1回戦

北陸（福井）22（10―1、12―4）5 富山南（富山）
小松明峰（石川）27（13―8、14―6）14 小諸（長野）
高岡向陵（富山）27（11―4、16―6）10 柏崎（新潟）
上田（長野）21（11―7、10―10）17 県工（石川）
小松工（石川）36（15―2、21―5）7 長岡大手（新潟）
高志（福井）20（8―2、12―9）11 野沢南（長野）
金津（福井）20（9―9、9―9、0―1、2―0）19 金沢市工（石川）
氷見（富山）29（16―4、13―4）8 柏崎工（新潟）

▽2回戦

北陸 25（12―6、13―10）16 小松明峰
高岡向陵 28（13―9、15―13）22 上田
小松工 22（13―5、9―7）12 高志
氷見 29（16―4、13―4）8 金津

▽準決勝

高岡向陵 19（5-6、8-7、4-1、2-0）14 北陸
氷見 18（9-8、9-8）16 小松工

▽決勝
氷見 22（10-7、12-11）18 高岡向陵

＜女子＞
小松市女（石川）22（10-1、12-4）5 福井商（福井）
塩尻（長野）27（15-3、12-1）4 巻（新潟）
新潟江南（新潟）10（3-4、7-2）6 寺井（石川）
佐久（長野）23（9-14、14-6）20 高岡商（富山）
屋代（長野）13（8-3、5-8）11 高岡向陵（富山）
金沢商（石川）15（7-3、8-5）8 長岡大手（新潟）
有磯（富山）17（6-3、11-3）6 羽水（福井）
小松商（石川）12（8-9、4-1）10 仁愛女（福井）

▽2回戦
小松市女 34（18-2、16-1）3 塩尻
新潟江南 20（7-5、6-8、2-2、2-2、2-1、1-1）19 佐久
金沢商 11（6-4、5-6）10 屋代
小松商 18（9-6、9-5）11 有磯

▽準決勝
小松市女 22（11-1、11-2）[illegible] 新潟江南
小松商 20（12-3、8-5）8 金沢商

▽決勝
小松市女 16（8-3、8-3）6 小松商

関東高校

（6月2～4日・茨城県水海道一高）

＜男子＞

▽1回戦
明星（東京）26（13-7、13-11）18 吉井（群馬）
竹園（茨城）24（10-14、9-5、2-1、3-2）22 八千代（千葉）
横浜商工（神奈川）22（9-7、13-11）18 市川（千葉）
川口北（埼玉）25（11-4、14-5）9 前橋（群馬）
岩井（茨城）30（15-3、15-8）11 小山南（栃木）
川口工（埼玉）24（11-7、13-10）17 神代（東京）
八郷（茨城）25（12-9、13-11）20 甲府一（山梨）
慶応義塾（神奈川）23（11-7、8-12、4-1、0-2）22 国学院栃木（栃木）
浦和実（埼玉）26（14-8、12-7）15 多摩（神奈川）
東邦（千葉）25（13-12、12-5）17 石橋（栃木）
江戸川（東京）22（12-7、10-8）15 日大明誠（山梨）

▽2回戦
日川（山梨）17（10-4、7-10）14 明星
法政二（神奈川）42（19-7、23-8）15 竹園
横浜商工 24（13-8、11-8）16 川口北
府中（東京）32（16-11、16-8）19 岩井
川口工 28（13-8、15-12）20 前橋商（群馬）
慶応義塾 21（9-12、12-7）19 八郷
浦和実 36（21-4、15-14）18 東邦
水海道一（茨城）23（10-11、13-11）22 江戸川

▽3回戦
日川 20（13-7、3-9、1-2、3-1）18 法政二
横浜商工 32（19-7、13-8）15 府中
川口工 31（16-9、15-11）20 慶応義塾
浦和実 33（11-9、12-8）17 水海道一

▽準決勝
日川 18（9-8、9-6）14 横浜商工
浦和実 29（17-10、12-13）23 川口工

▽決勝
浦和実 21（9-5、12-8）13 日川

＜女子＞

▽1回戦
生田（神奈川）22（12-6、10-8）14 鉾田二（茨城）
桜水商（東京）14（8-8、6-2）10 東邦（千葉）
昭和学院（千葉）1[illegible]（10-4、8-3）7 行田女（埼玉）
藤村女（東京）20（13-1、7-3）4 吉田（山梨）
国学院栃木（栃木）18（10-4、8-3）7 竜ヶ崎一（茨城）
栃木商（栃木）15（8-6、7-8）14 高津（神奈川）
和洋国府台（千葉）23（12-5、11-4）9 高崎女（群馬）
佼成女（東京）22（13-2、9-11）13 麻生（茨城）
水海道二（茨城）28（14-4、14-8）12 川口北（埼玉）
山梨（山梨）11（7-4、4-4）8 日体桜華（東京）
吉井（群馬）16（7-6、9-8）14 県商工（神奈川）

▽2回戦
生田 14（6-4、8-3）7 群馬女短附（群馬）
昭和学院 23（13-2、10-4）6 藤村女
明倫（神奈川）16（9-10、7-3）13 国学院栃木
栃木商 15（9-6、6-5）11 浦和実（埼玉）
佼成女 26（14-4、12-5）9 和洋国府台
水海道二 22（11-5、11-5）10 山梨
栃木女（栃木）22（11-6、11-6）12 吉井

▽3回戦
日川 18（9-2、9-4）6 生田
昭和学院 17（8-2、9-1）3 明倫
佼成女 26（12-7、14-7）14 栃木商
水海道二 13（12-4、1-6）10 栃木女

▽準決勝
昭和学院 13（7-2、6-7）9 日川
水海道二 16（8-3、8-4）7 佼成女

▽決勝
水海道二 8（3-4、5-2）6 昭和学院

東海高校

（6月23、24日・岐阜県市民体育館）

＜男子＞

▽1回戦
中京（愛知）40（19-3、21-5）8 加納（岐阜）
四日市工（三重）18（6-10、9-5、2-0、1-3）18 清水市商（静岡）（PTC 1-0）
大垣農（岐阜）30（14-8、16-8）16 桑名（三重）
愛知（愛知）18（10-9、8-7）16 富士（静岡）

▽準決勝
中京 23（11-11、12-9）20 四日市工
愛知 29（15-7、14-11）18 大垣農

▽3位決定戦
四日市工 28（16-18、12-9）27 大垣農

▽決勝
中京 29（13-10、16-6）16 愛知

＜女子＞

▽1回戦

市邨学園（愛知）24（15－3 9－2）5 県岐阜商（岐阜）
清水市商（静岡）23（10－5 13－8）13 上野（三重）
静岡城北（静岡）19（13－4 6－8）12 本巣（岐阜）
暁（三重）20（7－5 13－6）11 高蔵寺（愛知）

▽準決勝
市邨学園 23（10－5 13－5）10 清水市商
暁 20（7－5 13－6）11 静岡城北

▽3位決定戦
清水市商 12（3－4 9－6）10 静岡城北

▽決勝
市邨学園 15（6－6 9－4）10 暁

近畿高校

（7月22～24日）

▽男子▽

▽1回戦
西宮北（兵庫）19（9－3 10－5）8 奈良（奈良）
大阪商（大阪）21（13－3 8－11）14 桐蔭（和歌山）
八幡工（滋賀）13（6－4 7－4）8 一条（奈良）
都島工（大阪）21（14－7 7－4）11 明石北（兵庫）
東宇治（京都）24（13－6 11－9）15 明石（兵庫）
箕島（和歌山）18（6－6 12－9）15 正強（奈良）
三国丘（大阪）19（8－7 11－6）13 彦根工（滋賀）
向陽（京都）17（9－4 8－8）12 笠田（和歌山）

▽2回戦
桃山学院（大阪）17（9－5 8－7）12 西宮北
大阪商 22（10－9 12－4）13 高島（滋賀）
那賀（和歌山）19（6－3 13－4）7 八幡工
都島工 21（10－7 11－11）18 東山（京都）
此花学院（大阪）22（9－9 13－5）14 東宇治
彦根東（滋賀）24（14－8 10－11）19 箕島
添上（奈良）22（5－9 9－5 4－3 4－3）19 三国丘

▽3回戦
西宮東（兵庫）24（13－3 11－5）8 向陽
大阪商 16（8－8 8－7）15 桃山学院
都島工 17（10－5 7－5）10 那賀
此花学院 33（16－4 17－7）11 彦根東
添上 16（11－8 5－7）15 西宮東

▽準決勝
都島工 23（10－8 7－9 3－3 3－2）22 大阪商
此花学院 25（16－5 9－8）13 添上

▽決勝
此花学院 20（11－4 9－5）9 都島工

▽女子▽

▽1回戦
住吉学園（大阪）21（11－0 10－2）2 夙川学院（兵庫）
粉河（和歌山）16（6－0 10－2）2 愛知（滋賀）
宣真（大阪）14（5－2 9－6）8 甲子園（兵庫）
添上（奈良）20（8－4 12－5）9 京都女（京都）
米原（滋賀）16（7－8 9－5）13 笠田（和歌山）
明石（兵庫）18（7－3 11－10）13 生駒（奈良）
東宇治（京都）10（4－3 6－5）8 四天王寺（大阪）
彦根商（滋賀）19（6－1 13－1）2 奈良白藤（奈良）

▽2回戦
住吉学園 14（8－2 6－4）6 粉河
添上 21（13－3 8－7）10 宣真
明石 18（11－2 7－4）6 米原
彦根商 12（4－4 8－7）11 東宇治

▽準決勝
住吉学園 14（6－5 8－8）13 添上
彦根商 22（10－4 12－8）12 明石

▽決勝
彦根商 13（7－6 6－6）12 住吉学園

中国高校

（5月12～14日・境港市民体育館）

▽男子▽

▽1回戦
下関中央工（山口）24（12－5 12－9）14 川本羽須美（島根）
境工（鳥取）22（8－8 14－8）16 呉工（広島）
岩国工（山口）30（17－6 13－10）16 浜田水産（島根）
総社（岡山）28（11－12 17－9）21 境（鳥取）
修道（広島）35（13－5 22－3）8 松江南（島根）
倉敷工（岡山）31（16－6 15－3）9 米子東（鳥取）
尾道（広島）26（14－6 12－10）16 倉吉工（鳥取）
下松工（山口）26（14－9 12－10）19 倉敷商（岡山）

▽2回戦
下関中央工 35（15－9 20－6）15 境工
総社 28（15－15 13－11）26 岩国工
修道 24（15－8 9－3）11 倉敷工
下松工 28（15－7 13－9）16 尾道

▽準決勝
下関中央工 24（12－8 12－9）17 総社
下松工 31（15－9 16－6）15 修道

▽決勝
下関中央工 32（14－11 18－11）22 下松工

▽女子▽

▽1回戦
熊毛北（山口）19（11－1 8－3）4 米子南（鳥取）
比治山（広島）23（14－2 9－3）5 江津（島根）
徳山商（山口）34（16－2 18－1）3 倉吉西（鳥取）
松江市女（島根）9（3－5 6－3）8 総社（岡山）
徳山（山口）10（4－4 6－5）9 境（鳥取）
西大寺（岡山）9（6－3 3－3）6 進徳女（広島）
倉敷天城（岡山）9（3－2 6－1）3 邇摩高温泉津分校（島根）
山陽女（広島）30（14－0 16－5）5 米子西（鳥取）

▽2回戦
熊毛北 15（7－2 8－7）9 比治山
徳山商 19（12－3 7－6）9 松江市女
徳山 12（7－4 5－6）10 西大寺
山陽女 22（12－1 10－1）2 倉敷天城

▽準決勝
熊毛北 11（3－1 8－3）4 徳山商
山陽女 15（7－4 8－2）6 徳山

▽決勝
山陽女 11（5－4 6－6）10 熊毛北

各地の記録から

大阪府春季高校総体

【東ブロック予選】（4月29日～5月6日）

＜男子＞

▼勝者トーナメント

▽1回戦
摂津 28－11 四条畷
長尾 25－14 牧野
関西大倉 14－12 島飼
茨木 12－12 守口北（3PTC2）
芥川 17－7 同志社香里
茨木東 12－0 茨木工
西寝屋川 24－5 間真南
高槻北 14－11 城東工
春日丘 20－7 交野
大東 23－16 島本
枚方 23－7 磯島
三島 23－10 門真
浪商 24－6 南寝屋川

▽2回戦
摂津 14－11 淀川工
長尾 25－5 関西大倉
芥川 19－5 茨木
西寝屋川 25－13 茨木東
加納 31－8 高槻北
春日丘 24－11 大東
三島 29－10 枚方
浪商 22－18 寝屋川

▽3回戦
長尾 16－10 摂津
西寝屋川 20－16 芥川
加納 14－13 春日丘
三島 15－14 浪商

▽準決勝
長尾 14－12 西寝屋川
三島 20－16 加納

▽決勝
三島 14－13 長尾

▼敗者トーナメント

▽1回戦
牧野 23－13 島飼
同志社香里 16－15 守口北
茨木工 30－4 門真南
交野 21－10 島本
門真 14－11 磯島

▽2回戦
淀川工 33－3 城東工
関西大倉 11－10 交野
門真 23－3 茨木
南寝屋川 18－15 茨木東
四条畷 19－11 高槻北
大東 21－13 牧野
枚方 16－7 同志社香里
寝屋川 20－19 茨木工

▽3回戦
淀川工 24－7 関西大倉
南寝屋川 11－10 門真
大東 19－15 四条畷
寝屋川 16－12 枚方

▽4回戦
淀川工 22－9 芥川
摂津 25－4 南寝屋川
浪商 21－13 大東
寝屋川 15－13 春日丘

▽5回戦
淀川工 16－16 摂津（3PTC2）
浪商 19－18 寝屋川

▽6回戦
加納 18－15 淀川工
浪商 25－19 西寝屋川

▽4位決定戦
浪商 27－14 加納

▽2、3位決定戦
長尾 18－13 浪商

〔順位〕①三島②長尾③浪商④加納

＜女子＞

▼勝者トーナメント

▽1回戦
守口北 9－5 島本
枚方 15－0 長尾
門真 21－4 交野
南寝屋川 14－6 茨木東
西寝屋川 11－4 東寝屋川
芥川 6－3 三島
大東 8－5 高槻北

▽2回戦
摂津 14－1 守口北
枚方 21－1 門真南
門真 9－2 茨木
南寝屋川 7－7 香里丘（2PTC1）
寝屋川 12－4 西寝屋川
牧野 14－7 大阪市立
芥川 14－1 磯島
春日丘 27－0 大東

▽3回戦
摂津 14－3 枚方
門真 9－5 南寝屋川
寝屋川 17－7 牧野
春日丘 15－9 芥川

▽準決勝
摂津 10－5 門真
春日丘 15－7 寝屋川

▽決勝
春日丘 8－7 摂津

▼敗者トーナメント

▽1回戦
守口北 8－3 東寝屋川
三島 13－5 門真南
高槻北 10－8 茨木
西寝屋川 18－7 島本
大阪市立 11－9 長尾
交野 8－5 磯島
大東 11－7 茨木東

▽2回戦
守口北 10－4 三島
香里丘 19－5 高槻北
西寝屋川 11－7 大阪市立
大東 23－2 交野

▽3回戦
南寝屋川 7－5 守口北
枚方 10－6 香里丘
西寝屋川 10－4 芥川
牧野 12－6 大東

▽4回戦
枚方 17－8 南寝屋川
西寝屋川 6－4 牧野

▽5回戦
寝屋川 19－7 枚方
門真 11－5 西寝屋川

▽4位決定戦
寝屋川 14－10 門真

▽2、3位決定戦
摂津 22－6 寝屋川

〔順位〕①春日丘②摂津③寝屋川④門真

【南ブロック予選】（4月29日～5月6日）

＜男子＞

▼勝者トーナメント

▽1回戦
金岡 30－26 岸和田
泉北 22－12 高石
和泉工 16－13 堺工
泉陽 14－13 初芝
富田林 23－6 長野北
堺東 33－8 堺西
和泉 24－13 鳳

▽2回戦
三国丘 34－11 金岡
泉北 22－12 岸和田産
泉鳥取 25－14 和泉工
久米田 27－14 泉陽
登美丘 14－11 富田林
住之江 17－17 泉大津（2PTC1）
堺東 22－17 商大堺
貝塚南 23－15 和泉

▽3回戦
三国丘 20－11 泉北
久米田 23－16 泉鳥取
登美丘 23－14 住之江
堺東 17－13 貝塚南

▽準決勝
三国丘 19－15 久米田
登美丘 16－15 堺東

▽決勝
三国丘 21－16 登美丘

▼敗者トーナメント

▽1回戦
金岡 26－14 長野北
岸和田産 40－9 堺西
鳳 15－15 和泉工（2PTC1）
富田林 18－7 岸和田
高石 28－14 泉大津
商大堺 27－16 堺工
初芝 19－16 和泉

▽2回戦
岸和田産 30－22 金岡
泉陽 29－7 鳳
富田林 11－9 高石
初芝 16－13 商大堺

▽3回戦
岸和田産 25－13 泉鳥取
泉陽 14－14 泉北
2PTC1
貝塚南 17－15 富田林
初芝 24－13 住之江
▽4回戦
泉陽 24－11 岸和田産
貝塚南 22－18 初芝
▽5回戦
堺東 13－11 泉陽
久米田 20－19 貝塚南
▽4位決定戦
堺東 19－16 久米田
▽2、3位決定戦
登美丘 18－12 堺東
〔順位〕①三国丘②登美丘③堺東
④久米田

＜女子＞
▼勝者トーナメント
▽1回戦
泉北 25－5 鳳
▽2回戦
住吉学園 13－3 泉北
泉鳥取 17－5 東百舌鳥
高石 25－9 泉大津
久米田 20－6 貝塚
三国丘 13－8 伯太
初芝 17－9 岸和田産
和泉 13－1 岸和田
貝塚南 13－1 長野
▽3回戦
住吉学園 14－6 泉鳥取
高石 7－6 久米田
初芝 7－3 三国丘
貝塚南 7－4 和泉
▽準決勝
住吉学園 20－4 高石
貝塚南 7－7 初芝
2PTC1
▽決勝
住吉学園 19－1 貝塚南

▼敗者トーナメント
▽1回戦
鳳 12－7 伯太
▽2回戦
泉北 21－3 貝塚
泉大津 19－13 東百舌鳥
岸和田産 19－11 鳳
岸和田 7－6 長野
▽3回戦
泉北 12－9 久米田
泉鳥取 26－5 泉大津
和泉 9－4 岸和田産
三国丘 11－6 岸和田
▽4回戦
泉北 12－8 泉鳥取
和泉 7－6 三国丘
▽5回戦
泉北 7－7 初芝
2PTC1
高石 6－5 和泉
▽4位決定戦
泉北 8－6 高石
▽2、3位決定戦
貝塚南 9－5 泉北
〔順位〕①住吉学園②貝塚南③泉北
④高石

【北ブロック予選】
（4月29日～5月6日）

＜男子＞
▼勝者トーナメント
▽1回戦
千里 24－17 箕面
豊島 20－15 追手門
北陽 40－6 渋谷
池田 16－11 北淀
大阪学院 33－11 東豊中
吹田東 18－6 扇町
▽2回戦
都島工 23－12 千里
豊中 34－14 豊島
北野 46－3 箕面学園
北陽 14－13 東淀川
大阪商 25－10 池田
桜塚 25－3 西淀川
大阪学院 24－13 市岡
桜宮 34－4 吹田東
▽3回戦
都島工 24－11 豊中
北陽 26－10 北野
大阪商 32－7 桜塚
桜宮 18－10 大阪学院
▽準決勝
都島工 20－10 北陽
大阪商 20－13 桜宮
▽決勝
都島工 18－14 大阪商

▼敗者トーナメント
▽1回戦
北淀 15－14 豊島
東豊中 34－6 箕面学園
東淀川 35－7 扇町
箕面 19－14 池田
追手門 14－9 西淀川
市岡 34－15 渋谷
▽2回戦
千里 29－9 北淀
東淀川 11－8 東豊中
箕面 38－12 追手門
市岡 21－18 吹田東
▽3回戦
北野 21－15 千里
豊中 19－17 東淀川
箕面 25－21 大阪学院
桜塚 19－14 市岡
▽4回戦
豊中 23－9 北野
箕面 26－17 桜塚
▽5回戦
豊中 17－14 桜宮
北陽 18－12 箕面
▽4位決定戦
豊中 18－15 北陽
▽2、3位決定戦
大阪商 30－10 豊中
〔順位〕①都島工②大阪商③豊中
④北陽

＜女子＞
▼勝者トーナメント
▽1回戦
成蹊 18－14 扇町
渋谷 9－8 北野
金蘭会 14－4 東淀川
梅花 8－4 市岡
豊中 13－4 刀根山
▽2回戦
宣真 35－0 成蹊
豊島 31－1 渋谷
池田 10－7 千里
金蘭会 5－5 桜宮
3PTC2
桜塚 17－6 梅花
福島女 11－5 北淀
薫英 21－4 東豊中
箕面 12－6 豊中
▽3回戦
宣真 21－12 豊島
金蘭会 5－4 池田
桜塚 16－4 福島女
箕面 13－4 薫英
▽準決勝
宣真 22－7 金蘭会
箕面 24－3 桜塚
▽決勝
宣真 18－6 箕面

▼敗者トーナメント
▽1回戦
東豊中 8－6 東淀川
北野 7－4 北淀
梅花 13－9 扇町
刀根山 10－8 千里
市岡 14－5 渋谷
▽2回戦

豊中 12－6 東淀川
梅花 15－9 北野
桜宮 13－1 刀根山
市岡 9－4 成蹊

▽3回戦
豊中 18－7 福島女
薫英 16－12 梅花
桜宮 15－9 豊島
市岡 9－4 池田

▽4回戦
豊中 12－9 薫英
桜宮 10－6 市岡

▽5回戦
豊中 11－10 金蘭会
桜宮 12－6 桜塚

▽4位決定戦
桜宮 10－6 豊中

▽2、3位決定戦
箕面 11－8 桜宮

〔順位〕①宣真②箕面③桜宮④豊中

〔中ブロック予選〕
（4月29日～5月6日）

＜男子＞

▼勝者トーナメント

▽1回戦
住吉 35－10 大商大附
八尾東 20－9 池島
上宮 27－7 勝山
大和川 12－11 花園
東住吉 20－5 柏原
羽曳野 22－11 清風
山本 14－12 藤井寺
阿倍野 22－13 藤井寺工

▽2回戦
此花学院 40－10 住吉
八尾 23－9 八尾東
上宮 24－8 高津
天王寺 27－4 大和川
阪南 32－13 東住吉
羽曳野 19－13 生野
山本 20－11 阿倍野
桃山学院 24－7 教大附平野

▽3回戦
此花学院 27－11 上宮
上宮 16－15 天王寺
阪南 25－19 羽曳野
桃山学院 42－9 山本

▽準決勝
此花学院 27－11 上宮
桃山学院 19－13 阪南

▽決勝
此花学院 16－12 桃山学院

▼敗者トーナメント

▽1回戦
住吉 不戦勝 柏原
清風 14－10 八尾東
藤井寺 22－13 高津
大和川 22－10 藤井寺工
東住吉 31－5 大商大府
生野 25－10 池島
教大附平野 21－11 勝山
花園 13－10 阿倍野

▽2回戦
住吉 21－11 清風
大和川 26－15 藤井寺
東住吉 17－12 生野
花園 22－10 教大附平野

▽3回戦
天王寺 20－9 住吉
八尾 18－13 大和川
東住吉 21－8 山本
羽曳野 19－13 花園

▽4回戦
天王寺 17－10 八尾
羽曳野 24－18 上宮

▽5回戦
天王寺 18－11 阪南
羽曳野 21－19 上宮

▽4位決定戦
天王寺 23－10 羽曳野

▽2、3位決定戦
桃山学院 14－13 天王寺

〔順位〕①此花学院②桃山学院③天王寺④羽曳野

＜女子＞

▼勝者トーナメント

▽1回戦
鶴見商 10－6 清風
大和川 10－9 八尾
信愛女 14－5 八尾東
住吉 22－2 池島
生野 8－6 藤井寺

▽2回戦
四天王寺 25－1 鶴見商
大和川 15－4 高津
樟蔭東 16－3 西浦
東住吉 8－7 信愛女
阪南 10－6 住吉
山本 17－4 東大阪
天王寺 8－4 城南
大谷 15－4 生野

▽3回戦
四天王寺 23－3 大和川
東住吉 20－9 樟蔭東
阪南 12－4 山本
大谷 14－9 天王寺

▽準決勝
四天王寺 26－1 東住吉
阪南 4－3 大谷

▽決勝
四天王寺 8－4 阪南

▼敗者トーナメント

▽1回戦
高津 17－5 池島
藤井寺 21－2 西浦
住吉 30－2 清友
八尾 23－7 東大阪
城南 10－1 八尾東

▽2回戦
鶴見商 12－1 高津
信愛女 12－3 藤井寺
住吉 13－9 八尾
城南 12－7 生野

▽3回戦
鶴見商 17－1 樟蔭東
信愛女 4－4 大和川
3PTC2
住吉 12－6 天王寺
城南 7－5 山本

▽4回戦
信愛女 12－6 鶴見商
住吉 5－3 城南

▽5回戦
大谷 10－3 信愛女
東住吉 9－8 住吉

▽4位決定戦
大谷 12－7 東住吉

▽2、3位決定戦
大谷 12－5 阪南

〔順位〕①四天王寺②大谷③阪南④東住吉

〔中央大会〕
（6月3日～7月1日）

＜男子＞

▽1回戦
都島工 36－12 羽曳野
長尾 21－11 堺東
三国丘 17－10 加納
大阪商 18－13 天王寺
此花学院 28－10 北陽
浪商 27－18 登美丘
三島 27－19 久米田
桃山学院 18－11 豊中

▽2回戦
都島工 25－12 長尾
大阪商 20－15 三国丘
此花学院 28－14 浪商
桃山学院 22－12 三島

▽5位決定戦
長尾 22－21 三島
浪商 18－17 三国丘
三国丘 19－16 長尾
浪商 19－18 三島
長尾 21－13 浪商
三国丘 20－9 三島

▽決勝リーグ
都島工 23－17 桃山学院
此花学院 26－19 大阪商
都島工 19－17 大阪商
此花学院 18－13 桃山学院
此花学院 23－22 都島工
大阪商 17－16 桃山学院

〔順位〕①此花学院②都島工③大阪商④桃山学院⑤三国丘

＜女子＞

▽1回戦
春日丘 25－5 高石
箕面 18－4 阪南
住吉学園 17－4 豊中
寝屋川 8－6 大谷
宣真 28－3 東住吉
摂津 18－8 泉北
四天王寺 17－8 門真
貝塚南 6－5 桜宮

▽2回戦
春日丘 14－7 箕面
住吉学園 13－10 寝屋川
宣真 11－10 摂津
四天王寺 18－2 貝塚南

▽決勝リーグ
四天王寺 11－10 春日丘
宣真 12－7 住吉学園
住吉学園 10－9 春日丘
宣真 10－10 四天王寺
宣真 16－9 春日丘
四天王寺 7－5 住吉学園

〔順位〕①宣真②四天王寺③住吉学園④春日丘

岩手県高校総体

（6月2～4日）

＜男子＞

▽1回戦
花巻農 15－8 福岡

▽2回戦
盛岡商 20－14 一戸
盛岡南 16－10 生活学園

▽2回戦
盛岡一 27－14 花巻農
一関工 21－18 久慈
宮古 29－13 岩手
盛岡四 30－8 一関一
盛岡商 17－14 大迫
釜石南 23－17 盛岡三
水沢 12－10 福岡工
花巻北 31－8 盛岡南

▽準々決勝
盛岡一 31－18 一関工
宮古 20－18 盛岡四
釜石南 24－20 盛岡商
花巻北 32－13 水沢

▽準決勝
盛岡一 27－17 宮古
花巻北 24－18 釜石南

▽決勝
盛岡一 17（8－6、9－9）5 花巻北

＜女子＞

▽1回戦
久慈山形 13－5 一戸
黒沢尻南 9－5 宮古

▽2回戦
盛岡二 28－3 久慈山形
岩手女子 14－12 花巻農
平舘 15－1 向中野学園
花巻南 13－6 釜石商
花巻北 20－5 水沢
盛岡三 16－2 盛岡南
大原商 6－5 盛岡白百合
釜石南 6－5 黒沢尻南

▽準々決勝
盛岡二 27－3 岩手女子
平舘 10－7 花巻南
花巻北 18－4 盛岡三
釜石南 13－2 大原商

▽準決勝
盛岡二 19－12 平舘
花巻北 13－11 釜石南

▽決勝
花巻北 10（5－6、5－3）9 盛岡二

全国クラブ選手権石川県予選

（6月3、17日）

＜男子＞

▽1回戦
星稜ク 18－15 寺井ク

▽2回戦
小松クA 33－18 星稜ク
羽咋ク 24－20 七尾ク
県工ク 20－18 松陵ク
あすなろク 26－18 小松クB

▽準決勝
小松クA 31－23 羽咋ク
あすなろク 26－14 県工ク

▽決勝
小松クA 24（13－8、11－10）18 あすなろク

全国高校総体茨城県予選

（6月16、17日）

＜男子＞

▽1回戦
水海道一 38－13 水戸一
鹿島灘 17－15 竜ヶ崎一
笠間 31－18 下館一
八郷 24－20 土浦工
竹園 41－20 岩井西
太田一 20－16 土浦一
藤代 21－17 鉾田一
岩井 38－12 日立一

▽2回戦
水海道一 37－19 鹿島灘
笠間 28－20 八郷
竹園 22－14 太田一
岩井 28－15 藤代

▽準決勝
水海道一 28－17 笠間
岩井 26－19 竹園

▽決勝
水海道一 23（11－10、12－12）22 岩井

＜女子＞

▽1回戦
水海道二 23－5 友部
竜ヶ崎二 7－4 鉾田一
潮来 17－8 岩井
藤代紫水 8－7 竜ヶ崎一
麻生 15－10 日立二
結城二 22－13 石岡二
八郷 16－10 下館二
鉾田二 9－7 太田二

▽2回戦
水海道二 24－2 竜ヶ崎二
潮来 17－5 藤代紫水
麻生 14－12 結城二
八郷 16－8 鉾田二

▽準決勝
水海道二 18－5 潮来
麻生 12－10 八郷

▽決勝
水海道二 18（10－4、8－2）6 麻生

石川県高校総体

（5月31～6月3日）

＜男子＞

▽1回戦
泉丘 32－19 松陵工

▽2回戦
寺井 26－16 向陽
小松工 24－12 小松商
二水 19－16 星稜
明峰 35－11 金沢商
小松 31－11 羽咋
金沢市工 39－13 錦丘
松任 26－25 宝達
県工 30－14 泉丘

▽3回戦
小松工 29－5 二水
明峰 25－19 小松
金沢市工 31－16 松任
県工 30－14 寺井

▽決勝リーグ
小松工 28－14 明峰
小松工 20－15 県工
金沢市工 25－12 県工
小松工 17－11 金沢市工
明峰 21－9 県工
明峰 25－9 金沢市工
（順位）①小松工②明峰③金沢市④県工

＜女子＞

▽1回戦
小松市女 24－3 明峰
寺井 28－6 星稜
金沢商 17－1 短大高
小松商 31－0 松任

▽敗者復活
明峰 15－5 星稜
短大高 17－4 松任

▽決勝トーナメント1回戦
寺井 14－6 短大高
金沢商 12－6 明峰

▽準決勝
小松市女 18－6 寺井
小松商 22－5 金沢商

▽3位決定戦
寺井 15－7 金沢商

▽決勝
小松市女 15－5 小松商

第37回奈良県高校総体

（6月9、10、16日）

＜男子＞

▽1回戦

添上 35－1 広陵
生駒 30－7 桜井商
奈良工 25－15 十津川
奈良 42－1 上牧
正強 21－11 畝傍
天理 18－17 斑鳩
一条 15－10 橿原
郡山 20－17 東大寺

▽2回戦

添上 12－10 生駒
奈良 33－14 奈良工
正強 21－11 天理
一条 27－14 郡山

▽準決勝

添上 14－10 奈良
一条 19－13 正強

▽3位決定戦

奈良 18－17 正強

▽決勝

添上 30（14－7、16－10）17 一条

＜女子＞

十津川 24－1 橿原
短大付 19－17 一条

▽2回戦

添上 35－4 十津川
白藤 21－3 帝塚山
生駒 18－3 短大付
郡山 19－4 上牧

▽準決勝

添上 24－8 白藤
生駒 9－5 郡山

▽3位決定戦

白藤 15－11 郡山

▽決勝

添上 18（9－4、9－1）5 生駒

第35回秋田県民体育大会

（6月23、24日）

＜成年男子＞

1回戦

湯沢ク 32－16 大曲ク
VSOP 27－24 平和白
ばっけ 28－17 秋南ク
大農OB 30－19 秋田HB

▽準決勝

湯沢ク 36－18 VSOP
大農OB 34－22 ばっけ

▽決勝

湯沢ク 31（19－10、12－10）20 大曲OB

＜成年女子＞

▽決勝

大曲スポーツ 14（6－6、8－5）11 全和洋

＜少年男子＞

▽1回戦

大曲農 22－11 稲川
大曲 26－17 横手

▽準決勝

大曲農 30－22 羽後
大曲 27－22 湯沢

▽決勝

大曲 33（14－8、13－19、3－1、3－1）29 大曲農

＜少年女子＞

▽1回戦

湯沢 15－9 大曲

▽2回戦

大曲農 16－5 湯沢
和洋女 22－8 横手東

▽決勝

和洋女 13（7－3、6－9）12 大曲農

第37回千葉県高校総体

（5月12、13、14日）

＜男子＞

▽1回戦

鶴舞商 28－19 京葉
柏南 27－10 松戸秋山
千葉南 19－13 上総
木更津 17－12 国分
泉 31－8 流山東
鎌ヶ谷 15－13 東京学館浦安
幕張北 23－7 船橋西
我孫子 26－16 小金
県立柏 32－5 明徳

▽2回戦

二松沼南 42－7 鶴舞商
柏南 24－6 渋谷幕張
流山中央 25－17 国府台
東邦 28－6 千葉南
八千代 27－9 木更津
佐原 33－13 白井
市立松戸 20－17 房総学園
若松 29－14 泉
松戸六実 23－7 鎌ヶ谷
東葛飾 21－13 船橋法典
四街道 17－12 立市柏
東京学館 17－8 幕張北
市川 32－11 我孫子
拓大紅陵 22－19 生浜
芝工大附柏 31－9 市原
船橋旭 23－16 県立柏

▽3回戦

二松沼南 29－16 柏南
東邦 32－15 流山中央
八千代 12－10 佐原
若松 22－19 市立松戸
松戸六実 19－17 東葛飾
東京学館 26－10 四街道
市川 39－7 拓大紅陵
芝工大附柏 16－15 船橋旭

▽準々決勝

東邦 17－13 二松沼南
八千代 17－16 若松
松戸六実 18－16 東京学館
市川 28－19 芝工大附柏

▽準決勝

東邦 20－17 八千代
市川 20－11 松戸六実

▽3位決定戦

八千代 19－14 松戸六実

▽決勝

市川 17（9－7、8－4）11 東邦

＜女子＞

▽1回戦

泉 11－8 松戸六実
生浜 18－7 佐原

▽2回戦

昭和学院 20－7 泉
白井 12－1 国府台
東葛飾 20－4 御宿家政
東邦 13－7 柏南
佐原女子 28－4 流山東
流山中央 28－17 四街道
市立松戸 10－5 明徳
和洋女子 20－8 生浜

▽準々決勝

昭和学院 28－1 白井
東邦 24－6 東葛飾
佐原女子 15－14 流山中央
和洋女子 32－2 市立松戸

▽準決勝

昭和学院 14－4 東邦
和洋女子 20－7 佐原女子

▽3位決定戦

東邦 11－10 佐原女子

▽決勝

昭和学院 13（5−7、8−2）9 和洋女子

第37回青森県高校総体

（6月16〜18日）

＜男子＞

▽1回戦

五所川原 24−17 十和田工
青森 36−9 弘前南
七戸 31−8 鯵ヶ沢
青森東 34−12 野辺地横浜分
三本木 22−14 青森南
柏木農 35−14 野辺地工

▽2回戦

野辺地 35−15 五所川原
七戸 26−25 青森
青森東 25−24 三本木
青森商 33−18 柏木農

▽準決勝

野辺地 30−30 七戸（4PTC3）
青森商 25−24 青森東

▽決勝

野辺地 20（11−7、9−7）14 青森商

＜女子＞

▽1回戦

七戸 18−11 青森商
三本木 13−5 青森東
青森西 36−12 青森中央

▽準決勝

野辺地 20−14 七戸
青森西 25−4 三本木

▽決勝

青森西 12（7−4、5−6）10 野辺地

第2回千葉県クラブ春季リーグ戦

（5月20、27日）

▼男子1部

市川FOG 32−21 東邦
佐原 22−18 市原
小金 35−16 東邦
市川FOG 30−21 市原
小金 22−18 佐原
佐原 12−0 東邦
小金 19−18 市川FOG
市原 12−0 東邦
市川FOG 20−18 佐原
小金 29−21 市原

［順位］①小金クラブ②市川FOG③佐原クラブ④市原クラブ⑤東邦クラブ

▼男子2部

［順位］①流山中央クラブ②柏クラブ③清水クラブ④ステイラーズ⑤清野辺クラブ⑥柏南クラブ

▼女子

佐原メッツ 15−15 水郷クラブ
佐原メッツ 11−5 水郷クラブ

第11回茨城県中学大会

（6月17、24日）

＜男子＞

▽1回戦

結城 16−11 府中
出島北 23−13 土浦一

▽2回戦

土浦三 19−9 結城
麻生一 19−4 水海道西
伊奈 15−12 利根
古河一 19−15 茎崎
岩井 33−6 土浦六
新館 14−14 水海道（2PTC0）
美浦 17−9 石岡
鬼怒 20−16 出島北

▽3回戦

土浦三 30−5 麻生一
伊奈 19−18 古河一
新館 21−11 岩井
鬼怒 27−9 美浦

▽準決勝

土浦三 23−12 伊奈
鬼怒 15−14 新館

▽決勝

土浦三 24（14−4、10−7）5 鬼怒

＜女子＞

▽1回戦

結城 14−11 新館
土浦六 17−6 鬼怒
北浦 16−4 岩井
出島北 11−8 土浦三

▽2回戦

伊奈 22−2 結城
国府 26−8 守谷
岩井南 24−6 茎崎
土浦六 12−8 麻生
北浦 19−3 水海道西
五霞 13−11 牛久一
石岡 15−10 岩瀬東
水海道 18−13 出島北

▽3回戦

伊奈 29−4 国府
岩井南 15−14 土浦六
北浦 19−17 五霞
水海道 19−16 石岡

▽準決勝

伊奈 13−6 岩井南
水海道 13−8 北浦

▽決勝

伊奈 20（10−3、10−3）6 水海道

全国クラブ選手権近畿地区予選

（7月1日）

＜女子の部＞

滋賀ク（滋賀）8−5 わかくさク（奈良）
古都ク（京都）12−4 風見鶏ク（兵庫）
大阪コスモス（大阪）6−6 わかくさク
滋賀ク 9−8 風見鶏ク
古都ク 8−1 わかくさク
大阪コスモス 14−3 風見鶏ク
古都ク 15−7 滋賀ク
わかくさク 9−6 風見鶏ク
大阪コスモス 7−6 古都ク
滋賀ク 9−6 大阪コスモス

［順位］①古都ク②滋賀ク③大阪コスモス④わかくさク⑤風見鶏ク

国体和歌山県予選

（7月1日）

＜成年男子＞

▽1回戦

御坊ク 28−16 黒潮ク
住友金属 37−27 笠田ク
県和商ク 22−18 市和商ク

▽準決勝

御坊ク 32−29 住友金属
県和商ク 21−16 新宮ク

▽決勝

御坊ク 29（14−14、15−9）5 県和商ク

＜成年女子＞

▽リーグ戦

御坊ク 17−9 県和商ク
御坊ク 10−9 粉河ク
粉河ク 12−12 県和商ク

［順位］①御坊ク②粉河ク③県和商ク

スポーツが好き。汗が好き。
笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。
新日本製鐵

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第二三二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五九年七月二十五日 印刷
昭和五九年八月一日 発行
編集兼発行人 大野金一
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表（481）二三六一
振替 東京 六－五八三四八番
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）